

トンボユリ

冷えた空気に鮮やかな紅葉
この華やかな季節に舞い踊る風
引いてゆく汗の心地良さに
ちょっとした 人生の安らぎを感じる

山を歩く事に疲れたら
腰を下ろし
澄み渡った空を見上げてみよう
何もかも忘れ たじろと
雲の流れを見つめる

そんな空白の時間が
今の人間には必要なかもしれない

そしてまた
北山という人生のフィールドを
私は どこまでも どこまでも
歩き続けていきたい



日吉町海老谷

京都北山撮影紀行 最終回

さん や しょう よう 山野道遙

—— 終章(空白の時) ——

撮影 北川 裕久



晩秋の塚敷ヶ岳

季節の



チカラシバ



柿



モミジ

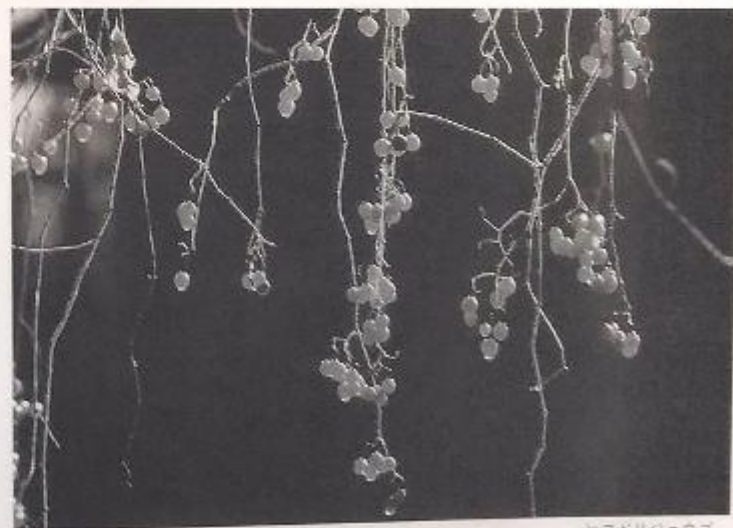
実景

撮影 武市通治

晩秋



ススキ野



ヒヨドリジョウゴ



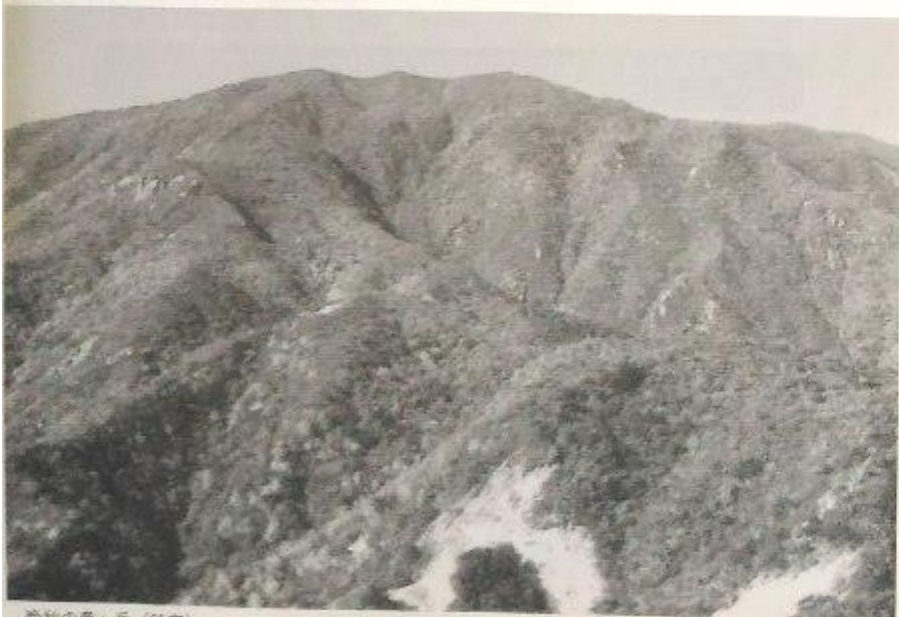
晩秋の御池岳 (鈴鹿)

岩野 明



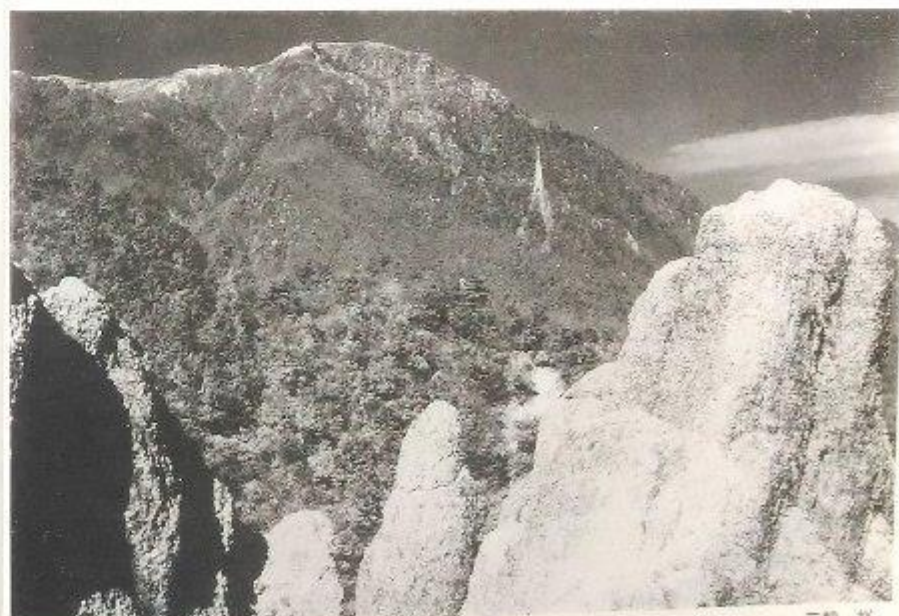
雲丹の尾根から鎌ヶ岳を望む (鈴鹿)

三輪 裕



晩秋の壺ヶ岳 (鈴鹿)

岩野 明



日ハゲより御在所山を望む (鈴鹿)

三輪 裕

●目次

表紙:松田敏男「新雪に輝く北岳」(南アルプス)

●作者プロフィール ● 1949年、京都市生まれ、京都府立芸術大学卒。
1987年より山岳活動、山岳部の指導者として、(京都市平安宮、南アルプス山小屋、他)
京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等山岳研究会員

新作 別冊 関西の山
1991年11・12月 43号

●アウトドア・ライフ入門書「山野散歩」 たのしい山歩き・尾瀬雑考「間違えないでね」	61	新ハイキング計画と報告06	61
●文学歴史探訪ハイキング 晩秋の栗原・忍坂の里	46	バス時刻(京都北山)	70
●「天正山と誕生山」	58	編集後記・広告案内	72
●「三石ヶ峰」	54		
●「高見山と長が平山」	52		
●「観音ヶ峰」	46		
●「コース」	43		
●「京都北山グループ」	42		
●「第31話父親になった日」	36		
●「第32話ガイドブックの裏面」	37		
●「第33話恐怖の針山」	39		
●「第34話エピソード(白標をもって)」	41		
●「第35話エピソード(白標をもって)」	41		
●「京都北山・やぶ池を桶狭山行記」	42		
●「晩秋の白倉岳三峰縦走」	42		
●「京都北山グループ」	43		
●「松永 恵一」	43		
●「岩野 明」	46		
●「岩野 啓司」	52		
●「岩野 明	54		
●「岩野 啓司	58		
●「岩野 明	61		
●「岩野 啓司	64		
●「岩野 明	70		
●「岩野 啓司	72		

●グラフィア

京都北山撮影紀行(最終回「終章」)
季節の実景(晩秋)

北川 裕久
武市 満治

●巻頭言

山行例会のリーダーとして、当然のことながら、参加者から歩き方や地形図の読み方を教えてくださいます。とか、これから先のコース概要や所要タイムについての質問を受けま

ある程度山慣れしている人はそんな心配も無いのですが、まだ始めたばかりの人はとても不安なものです。私もハイキングを始めたころは、少しの登りで心臓が破裂しそうになるし、下山後の筋肉痛はひどいものでした。そんな経験をしながら一か月に2、3回程度の山行を半年ばかり続けると、ようやくゆとりをもって山道が歩けるようになりまし

た。帰宅後も心地よい疲労感で、いい気分になっています。何事も経験で、やがて歩き方のコツも分かり、地形図の読み方も、コースの概要や所要タイムを知ることが出来ます。今は不安で心配が

新ハイキング関西 代表 村田賢俊

自然を歩く仲間です。

秋冬のNEWモデル大集合

この秋、OD BOXが自信をもっておすすめするウェアもグッズが大集合。今回ご紹介するNEWモデルウェアは、カフフルで機能性にすぐれ、アンダーウェアも防寒、アウトドアはもちろんタウンでも着こなせるフリースジャケット。



パタゴニア
シンチフリースジャケット
定価 ¥19,500

カラー: 黒、サイズ M-S-L (115-140)
カフ、5色、サイズ M-S-L (115-140)
多くのフリースジャケットが共通するフリースのた
組、パタゴニアと異なる「メンタム」とは別れが異
いながら従来のアイテム。

ザ・ノースフェイス
アルマデラジャケット
定価 ¥16,000

カラー: 黒、サイズ S-L
内側に柔軟な層(フリース)を縫いこむことで、
すぐれた保温性、柔軟性を両立する。700gのク
ラウドのフリース素材を使用。

ご来店の際、新ハイキングクラブ・メンバーズカードをご提示の方には、
OD BOXメンバーズ価格でご提供。

※この他、OD BOXはフリースジャケットはDONAYV、登山ウェアはMONTAGUT、登山靴はMONTAGUT、登山杖はMONTAGUT。

遊	衣	自然
登	食	で暮らす。
CAMP	住	



アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ素敵生活」
自分の好きなことで自然とふれあふ。「登山」の楽しさを通して、
もっと自然と仲良くしたい。OD BOXはそんな心を持つ、
一年中アウトドアのお店です。

通信販売でもお求めいただけます。お気軽にお問い合わせください。
(06) 537-1111

- フロアが変更してさらに
見やすくなりました。
- 4F サイクル
ランニング用品
- 3F キャンプ・登山用品
カヌー
- 2F 登山・アウトドア
ウェア
- 1F バッグ・登山靴
アウトドア雑貨
- B1 ダイニング用品
テニス

OD BOX大阪店
〒542 大阪市中央区西心斎橋2-10-34
TEL 03 (2) 212 9366
定休日: 第3・5日曜日
営業時間: 10:30-19:00
日・夜営業: 10:30-17:00



互

湖北の峠雑感

江原 一生

近江湖北の標高、土蔵岳と千
の山並みをもつて国道303
号線が標高七八〇の八草（はっ
そう）峠を越え、岐阜県美濃地方
へ通じている。
杉野谷から金巻橋と土蔵岳の間
を横断する街道は一九五〇年に開
通し、国道に指定された。旧峠が
新峠の北方約一・五kmの土蔵岳寄
りにあったが、いまは廃墟である。
旧八草峠は久加越（くがこえ）
ともいわれた。古くからこの峠を
越えて近江と美濃との村人たちの
婚嫁や経済交流が行われた湖北の
主要街道だった。
『近江興地志略』（一七三四年）
に美濃路、七道あり、その一つに
「久加（くが）越 金井原村より
美濃久加村に出づる道」と紹介
されている。『近江同大絵図』（一八
五六年）にも、峠を越えた美濃側

に「久加村出」と標榜してある。
ところで、この久加村のことだ
が、旧八草峠の東側の岐阜県掛
郡内に昔も今も存在しないのであ
る。峠を降りたつた村は川上村で
ある（かつては峠の途中に八草村
もあった）。
岐阜郡内の峠に隣接、もしくは
別当河村の合併史をみると、明治
三十年四月一日、江戸時代から続
いた同押川上、広瀬、坂本の三方
村が合併して坂内村に、また同じ
日に同郡日坂、小津など十二カ村
が合併して久瀬村に改称した。し
かし坂内、久瀬両村に旧久加村は
ない。
とすると、久加（くが）村は、
久瀬村に吸収合併された日坂村
しかない。日坂なら湖北西部の甲
津原村と伊吹山地の新穂原や百池
峠などを媒介に昔から交流があ
り、近江側に知られていた。川津
原村からは、金巻津原の鳥渡峠を
経て広瀬、川上に通じる道もあつ
た。
つまり、「久加」は「くが」では

なく、「日坂の起て字であり、「久
（ひさ）加（か）」なのである。
『滋賀県の地名』（宗凡）は
「金巻峠の項で、「八草峠越久
加越、久加村（現岐阜県掛郡
坂内村）に至る」と記している。
『前川日本地名大辞典』（滋賀県
も「くがこえ、久加越（久加越）
の項を挙げている。「久加」の呼称
を再検討すべきだろう。
ちなみに、日坂には城跡があり、
柴田三郎の時代小島美井城で一
躍有名になつた村である。
さて、話を転じて、八草峠の南
側は河であるのか。土蔵岳とす
れば、美濃八草を指す。伊吹山で
は織田信長が美濃関を開いたが、
ここでは指さない。
私見では、「はつさう（八草）」は
天然岩の別称である「桐樹（とう
そく）」の転化と推察する。歴史的
仮名遣いでは桐樹は「はつさきつ」
である。地方によっては「はーそ
ー」となる。

昔は、天然岩は城の神という
信仰によつて雑感すると信じられ



互

随想 (山のエッセイ)

た。薄酒のなかでも最も恐ろしい
ものの一つだった。
日本では古くから流行病を追い
払うため国境で疫神祭りがおこな
われたことが『延喜式』（巻第三）
にみえる。
池田末問氏（命多）によると、
疫神という病鬼は、よそから入つ
てくるので、昔の人は、坂の入口
のところで息み成いをした。
イミハライはイモアライになま
った。「草池」の源の「口（いもあら
い）」の地名も元はイミハライであ
る。イモ「芋」は疫病を意味した。
明日香から吉野へ越える坂道を
「妹峠（いもとうげ）」その東方に
「種峠（むそとうげ）」がある。種
峠も疫病神のことである。八草峠
も例外ではないと思ふが如何なる
う。疫病神伊弉諾、伊弉册、道祖
神の行儀でもあればいいのだが、
どうも敬語。



地形図「万五千分の一」(「朝日」
の595・9)が「フカンド
ウ」その北にあるふもとを「はつ
「コモリ」と唐人仲間と呼ばれ続
けてきた。しかし、道の短地区で
区長さんや区長者の集つておられ
る折に、これらの山々について尋
ねると「深草山」で、相違文は「深
草の里」と言われている。これに
由来しており、「ふかどう」を「フ
カンドウ」と聞き違えた結果であ
る。また、「コモリ」については、
「コウモリガダケ」と答えが返つ
てきた。「昔からこう呼ばれている
ミコウモリでもいたのですか?」
漢字はわからないが」とのことだ
つた。「コモリ」と呼ばれていたの
も最初の聞きだし方が間違つてい
たのだ。
最近、丹波の山に登り始めて、
地形図「万五千分の一」(「朝日」に

山名について

内田 嘉弘

「西山」とルビがふつてあるから、
「せいざん」または「せいやま」と
呼ぶのだろうか。なぜ「にしや
ま」と呼ばないのだ。と現地へ着
くまで尋ねていた。登山口の八田
でこの山の読み方を尋ねると「さ
いだにやま」と答えが返つてきた。
この八田から出ている谷の名前が
西谷で、これからの山名もあつた。
下山後、念のため別の人に尋ね
ても同じ答え。また、八田の北の
集落・井尻でこの山を指差して尋
ねた折にも同じ答えが返つてき
た。「西山」は明らかに関連いで、
これも尋ねた人が確認せずに西山
と発表されてしまったようだ。
地形図「万五千分の一」(「朝日」
のみずほトンネルの南西にある5
566・9)は「寺の上の山」と
か「笹尾谷山」と聞いている。こ
の山の南側に田圃があることから
「寺の上の山」と言われているの
かもしれないが、こんな山名がま
かり通るわけがないと思ひ続けて
いた。また「笹尾谷山」は笹尾谷
の頭という発想からであろうから



互



互

随想 (山のエッセイ)

と実大行儀にいたったのだが……両親の説教にもよくおれてしまった。

柏ヶ原から聞いた話はがまには、百鬼の影で土まがしなながら槍の穂先に立つたこと。まよき、が可愛かったことなどが書かれてあり、その楽しい思い出一杯の「絵はがき」を手にしながら、佳奈さんと和佳さんの2人が槍の穂先でアロケンに回り廻り、姿を思い浮かべると、目頭が熱くなり、早く会ってみたいと気が焦ったのを覚えている。

今年の春休み、翌元を離れる冒険をし、初めて姫路の小文さんの家で泊ってもらった。我が家はすでに二十歳過ぎ、8年生の彼女が楽しく、喜んでくれるだろうかと不安もあったが、和佳さん、3日目の朝を迎えたので、佳奈さんに「楽しかったぞ」と聞いたかったが、止した。怖かったのである。

次に姫路へ来る時は智佳さんと2人で来るように言って、御嶽さんの手元に返し、黙って別れるこ

この山名は納骨がいくところ、この山に登るため、みずほトンネルを渡り、大台ヶ原の集落で畑仕事をしておられた方(77歳)にこの山名を尋ねると、「岩石です」と答えて返ってきた。勿論、紙に書いて確認した。但し、「御嶽山」のいわれを南側の東落、積雪で確かめる必要があると、まだ思っている。山名の発表は慎重にしなければならぬ。

大台ヶ原の出会い

その後

須磨岡 輯

今、小文さんに可愛い小学6年生の彼女がいる。知り合ってから3年余り、彼女の名は「佳奈」さんと言っておかっぱ髪がとっても愛らしく、性格も素直なのが気に入っている。

3年前の5月の連休に仲間と大台ヶ原へ。2日間ともまずまずの

天気、前夜はしたま飲を下げたのに寝過ぎすことなく、御米光を拝することが出来たので気分を良くしていた。帰路につくまでのひととき、野車道近くの地元の土産店、昔の物産販売コーナーへ顔を出し、オオツグ、レジに可愛いお子がいって、かいがいしく手伝っているではないか(おぼつかない手つきだが)、この姿に接して、胸が若々しくときめき、忘れかけていた熱い思いがきたたけられた。言うまでもなく、一目惚れである。お嬢さんと写真を持ちたい旨を「おじいさん」に申し入れたら、気持ち良く、OKの返事。

この時の写真が縁で、3年余りも家族ともども仲良く付き合っていたらだいてるのは、彼女の努力のおかげだと感謝している。それは小文さんの手紙に、学校のこと、妹達のこと、山へ行って疲れたことなど楽しい返事を送ってくれるからである。小文さんもその返事に応えるべく学年に合った漢字を楽しく勉強させてもらっている。

佳奈さん手紙で、たびたび感動する。ある時刻、急に字が上手くなり他の人が書いたのではないかとわが目を疑った。小文さんが考へてもみなかったような文章で手紙を書いた時は、佳奈さんの成長を素直に喜ぶ。その反面、寂しい反省もある。それは我が子の成長の手印を素直に感じ取ってやれなかったことである。

佳奈さんの家族は、今流に言うところ、三世同居で、なかなか甘やかである。佳奈さんは3人姉妹の長女で、妹に智佳さん(小3)、智紀さん(長男)がいて、たえずいざこざや、こせり合いがあるのに、いつとはなしに取まわっている。よく言ったり、よく聞かされた言葉に、姉さんだから……といえなさい。しんほうしなさい……言々、いつの時代になっても一番手っ取り早い大人の仲波方法なのであろうか。

時には、これに反旗を掲げ両親をてこずらす。昨年の「蕨、岳(槍ヶ岳)」の山行に行きたくないと

にした。答えは米巻か、米巻になるが楽しい結果の報告が出来れば幸せだと思っている。

鈴鹿の自然は 私の生き甲斐

岩野 明

私は近江八幡市に暮らしている。鈴鹿に登り始めて約10年、カブ50で一時間走るとほとんどの山の麓まで行ける。バイクだと道さえあればどんな林道でも入れる。又、車に車が渋滞しても気にならない。弁当とガソリン代千円あれば一日充分に楽しめる。これをやりだしたらやめられない。

以前は夏と冬はやめていたが、最近冬の鈴鹿に登り始めた。病みつきになり、週末の天気と相談しながらいろいろとコースを変えて登っている。主なターゲットは笠仙山(特に西南尾根)、御他傍(鞍

背尾根や南からの土尾尾根、雨ヶ岳(前水頭原杉)、船岡山(東尾根)等である。

冬の鈴鹿には近江側から入山する人はあまりいない。普通アツシユで通れない所も雪期にはストリートに行ける。冬場でしか入れないルートを更新して登っている。白一色でキラキラと光る樹氷の山は別世界のように、身も心も真っ白。鈴鹿の冬山を丸ごと楽しんでいる。近年アウトドア用の膝下までのゴム長を履いているが、これが非常に便利。くさね雪のラッセルや雪解け道も気にならない。

鈴鹿山系には約1000の山がある。特に近江側は奥が深く、ごく限られたルートを除き、多くの山や尾根が登山の行家からはずれている。登る人はほとんどいない。今まで人が全然入っていないルートをかなり発見しているが、自然がそのままで、鹿やカモシカの楽園になっている所もある。これからも新しいルートを紹介しようと思っている。

静寂の中丹波を歩く

嶽山と人尾峠

慶佐次 盛一

丹波

京都で山陰線国郡行きに乗り、阪部で福知山行きに乗り換える。この日は私達山仲間の本丹波後の山行だった。一年の最後を締め括るにふさわしい静かな山を願って、中丹波日吉町の中世木の嶽山(558m)を進入だ。嶽山は国土地理院の地形図では無名峰だが、昭文社の「エアリアマップ京都北山」では、ガイドマップの左端に嶽山の名が記載されている。

嶽山北東方の人尾峠には、中世木と下宇津を標ぶ赤い線が描かれていたが、嶽山へは赤い線は付いていなかった。恐らく明確な道路が無く、コースとして取り上げられなかったからだろう。地理院の地形図では中世木の上谷を過ぎたあたりから、嶽山へ向かって破線

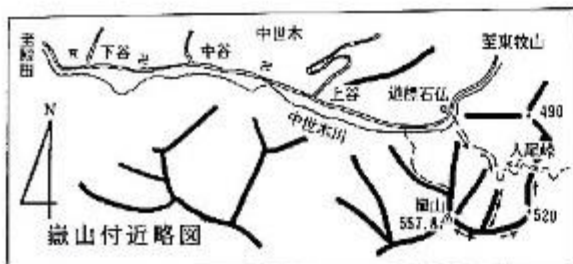
の道が付いているが、登路として選ぶにはきついに思われた。やはり嶽山に登るのでなら、ガイドマップに示されたコースをたどるべきであろう。それが無難というものだ。そして白樺ある人尾峠から峻険をたどり、嶽山へ登ろうと考えた。

人尾峠から見る嶽山



大堰川沿いに走る山陰線の車窓からは、冬ぎれの丹波の、狭い重野な山々の眺望が楽しめた。魚問あたりまではザックを置いて登山者が目立ったが、阪部で乗り換えた福知山行きの列車は閑散として、登山者の姿は紅葉以外に見当たらなかった。

岡部から下車駅である阪田まではわずかの時間で、小さなトンネルを抜けて大堰川の鉄橋を渡る。阪田駅だった。降車客は私達とあ



と敬人ばかり。眼前から京都交通の中世木方面行きのバス便もあったが、日曜と祝日は運休だから、日曜山行の私達にはもちろん利用できない。最初から乗り物はあてにしていなかった。

阪田から峠路と胡麻川に沿った車道を南下する。胡麻川は河川改修工事中なので、川の中にもフェルトロープが入っていた。対岸の学校の建物には一部古色蒼然とした木造の校舎も見られ、なかなか懐かしい思いがたつた。踏み切りを渡り、迂回する胡麻川の

橋を渡る。阪田の三差路に着く。

三差路を左手折してもう一度踏み切りを渡って大堰川沿いの村道を進む。涼風な駅前からの車道を離れると通過する車も少なく、急に静かになった。大堰川を隔て、南に形のいい姿を見せるのは大岡山。山頂に小さなアンテナが立っているのが見え、その影はきれいに描かれている。

のどかな丹波の風景が広がるのだが、お天気が方は曇り雨の予感で、かんばしくなかった。左に成徳院への参道を分けると民家もまばらとなり、やがて木住への車道が北へ延びる小道帯である。このあたりで早々と小雨が落ちてきたが、傘をさすまでもなかった。小道帯を過ぎると間もなく中世木と大堰川方面へ車道を分ける。これも河川改修工事中で、天若方面への村道も数箇所山道が荒々しく崩られて赤土が剥き出しになっている。

地形図ではここに巨神の祠と、神社と思われる建物が記載されているが、山肌は大きく削られて、建物があつたと思われる所もブルで半壊にさらされて踪影も無かった。ここに巨神のバス停があり、神社は巨神を祀っていたものと推測できた。工事中は巨神殿のこの仮の社で引越されたらしく、とんだ巨神に迎われたようだ。

九州 百名山に登ろう!

福岡発着 (東京・名古屋・大阪発着もあり)

- 霧島連山縦走(10/23~24) 22,000円
- 大崩山(10/30~31) 27,000円
- 祖母山縦走(11/2~3) 16,000円
- 九重・黒岳縦走(11/2~3) 14,000円
- 嶽山(11/13~14) 16,000円
- 市房山縦走(11/13~14) 14,500円
- 宮ノ浦岳縦走(11/20~23) 98,000円
- 宮ノ浦と霧島(12/30~1/3) 108,000円
- 高千穂のご来光(12/0~1/1) 19,000円
- 開聞岳(1/0~9) 15,000円

※他にもたくさんコースあります。資料を請求下さい(無料)

アミューストラベル株式会社
 国内旅行部 335号 1-6871 福岡市東区東区東 79-132
 福岡市博多区博多駅南1-7-16
 新2花井ビル 7F 812
 ☎(092)414-5566
 FAX(092)414-8543

高千穂旅行 全費無料

私達は左中世木方面へ、大塚川支流の中世木山谷の村道に入る。村道は整備されて広く、右側の山肌には赤木の林立が素晴らしい。軽やかな雨音をたてて流れる中世木川はあくまでも清く、浅い河には魚影が走った。暫くは流に村道が続いたが、まだ見えぬ中世木の村々や、これから登る登山への期待感に大いに誘われていくのだ。村道は整備された村道もやがて未整備の細い村道となり、中世木川の両岸には樹林を類したたんだも現れ、行く手に登山の山並みがやつと見え来た。それは決して登高意欲をそそられるような雄々しい姿ではないが、いかにも丹波の山らしい、重厚でありながらたおやかなたけを連ねる山並みであった。一見して取り付きやすそうに見えるのだが、丹波の山歩きは難しさを私は知っている。

村道が緩いカーブを描いて山の端を回り込むと中世木の下谷の村だった。ここから、中谷、上谷と中世木の小さな集落が続く。集落といっても、狭い山間を流れる中世木川に沿って、農家が散居する集村といつてもよいだろう。その中、殆どの農家に家族入りの立派な土蔵が見られ、道端には熟柿をたわわにつけたままの柿の木が、弓なりになり、農家の人達はお正月用の小豆の飴を箱を出して

た。北山の赤山ほどではないが、わらわら屋敷の農家も所どころに見られ、作業小屋には目撃していた牛のものと思われる道具も吊り下げられて懐かしいたなすまいだった。この村の風景は、おそろしく昔問と少しも変わっていないのだ。

中世木集落の上谷の村を通ると、西側から山が迫ってくる。もうそろそろ人尻峠への入り口だろうと、注意深く歩く。細路道が北へ向き始めて暫く行くと、道の左の傍に一体の石仏が立っていた。「右うつ京道、左まきやましゅうさん道」と刻まれた道標石仏だった。顔は欠けていてミカンが二つ供えられていた。一説によればこの石仏は女体だという。顔が欠けているのはそのせいかも知れない。美しい石仏の顔に嫉妬した女性の仕業であろうか。

石仏の前の小川に鉄板の橋が架けてあり、そこが人尻峠への入り口だった。入り口の橋林には絞り丸太の加工が施され、右の峠道に入るとよく踏まれた道が植林帯の小谷沿いに上がっている。足元には赤く熟れた冬イチゴの実が散っている。丸太の横道を過ぎた峠道の途中、左へ原根を巻くように上がって行く道と谷沿いに続く道に出合っただけで戸惑った。実は左の原根を巻くように上がっている

道が人尻峠への道だったのだが、私の判断ミスで谷沿いの道を歩んでしまった。この道は細道だったようで途中で断切れてしまい、仕方なく右側の植林帯の谷間にルートをとった。峠道は滑ったようだが、登山への方向はよかつたのでまたまた原根を巻いた。かなりの急斜面だったから、植林帯だから危険はなし。植林の下はヤブこそないが崖の急な傾斜だった。やつとこの原根で登山東方の樹林帯に登り着き、一息入れて踏み跡程度の道を西へ戻って登山へ向かう。植林帯の深んだ後登を半分ばかりも歩くと頂上で、登山へは殆ど直登に近い登りだった。

因二の原根は大きく広がり、スクスクと伸びた北山杉の空間に樹一つ無い。等三角点の埋まっていた。三角点のそばに積み上げられた積置物の残骸が少々目障りで、腰差にも思えない山頂だった。あのゴミゴミとした登山、私も無に期待通りの静かな山頂だった。Mさんが担ぎ上げて下さった中世木のワインを飲んで開けて乾杯。日さんはワインだけでは寒かろうとお酒を温めてくれて、暖かな山々に原根の賑やかな声がこだましていった。下山はやはり、登り始めた人尻峠に向かうべきだと原根を東へ伝い、500mのピークから北へ下る。その下りも急だったが、途中



人尻峠

から左の斜面が伐採後の幼木帯となり、眼下に人尻峠がはつきりと確認できた。下りついたら人尻峠は、背後に聳える登山が望め、今朝歩いて来た中世木の村を一望できる美しい眺めだった。

峠には行きなれた前、半歩の古びた下駄が引かれていた。ここは奥州の首領、阿部貞重の屍の下敷を埋めた所とも伝えられ、いわば人塚でもある。人塚峠という名もそのゆえんであるのか。昔は殿から下の病に患病あらかたか信仰を集めたという。そういえば、朽ちた祠の中に小さなワラジの巻物の巻がある。昔、峠にはクヤキの大木が享々と板を広げ、東には下流井へ下る峠道が迂曲しながら続いているようだった。

北山クラブの役員久島英氏は、この峠の風景に苦勞したことわざの昔言「北山の峠一ナカニシテ出坂、マシクテおられるが、私達は

伐採後の好条件にも適り合せて、無事にカメラに収められたことは本当に幸運だった。峠を後にして中世木側へ下る。峠道は明瞭で、登りに戸惑ったのが峠道に無事下りつた。やがて峠道の道標石仏に突いた。「入谷子殿前」の碑が本格的に降り出して、赤まきしながら上谷、中谷、下谷と、朝来た道を戻ってきた。峠道の駅へ帰って行く。途中、一服飲んだら一生忘れたいという、「生木」と呼ばれる名水があり、私達も一口ずつ飲んで入れる。

小雨に濡れた丹波の山並みは曇りのように美しく、心を和ませてくれる。明日は冬至、日暮れもいつになく早いようだった。

(平成4年12月20日歩く)

- △コースタイム▽
- 坂田駅→1時間20分、道標石仏→1時間 環山(部分)人尻峠 15分、清瀬石仏→1時間 20分、坂田駅
 - △道標石仏 2月21日撮影
 - △R大阪駅→坂田駅往復 2840円



GAIA

キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48L 赤札 ¥9,000

アリゾナ35L // ¥6,800

GAIA-JAPAN

ヨミスポーツ

〒545 大阪市天王寺区南船場4-70

TEL06(772)7231

FAX.06(779)2191



兵 ① パラレル、インナーフレーム付

② スーパーウエストベルト付

北山の静かな尾根を歩く

おのみ 大見尾根

松田敏男

京都北山

私が所属している山の会は、毎週日曜日に誰かがリーダーとなって山行を重ねているが、最近月に二回土曜日が休日となった私は山へ行ける楽しみが、ひとつ増えてしまったようだ。しかし前週の日曜日には、当会の忘年会山行が前夜登山小屋泊で実施されたので、6日後の土曜日のこの山行には、多くの人の参加が見込めず、また車のある人の参加もなかったため、保田さんと2人のバスでの山行を考えた。

そういう時のために、私が以前から準備していた北山の真ん中、しかしあまり歩かれていないコースの出番となったのである。12月は適季、あの蕭々とした冬木立ちの中を歩ける予感で、心はもう現地にあった。そこまで

断言できる訳は、3年前に雲取山に登った時の印象にある。それは1989年の4月、リーダーの大山さんと、今は一児の母親になっている当時の朝倉さんと3人で、大布施町から雲取山をめざした山行だった。バス道の西側に並行して南北に走る尾根がある。植林の多い尾根だったが、木が若くて歩きやすく展望もあった。そのP644地点あたりから東を眺めると、大きな大きな大見尾根が、ゆったりと自然林の姿で横たわっている。あの尾根はさぞかし気持ちのいい所だろうと強く印象に残ったのだ。

また、それよりずっと以前から、花背峠を越えて雲取山とかもつと奥の広河原周辺の山に行く時、峠から北の斜面を幾重にも続く急

雲取山の北P644付近より見た大見尾根



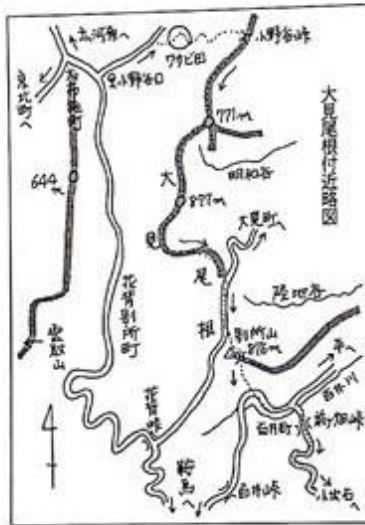
カーブを下りながら、花背別所町の、しつとりとした家並みを俯瞰するその景色に、右手奥の、やさしく延びている山の端の存在には、いつも親しみを感じていた。それが大見尾根である。

また今日も、その景色を、メロディーバスの横かしの音色を聴きながら、ゆったりと見る。もう山の中の人になった気分だ。

小野谷口に着く。ここから東へ少し進んだ所で林道と分かれて右側の山道に入る。林道

は左側を山腹へ続いているので、谷をつめなければならぬ登山道とは見分けがつくだろう。あまり手入れされていないワサビ田が、金網で囲ってある。流れも尽きて、笹の中の道をジグザグに登れば小野谷峠に着いた。登山道は大見町に続いているが、ここから今日の目的の山域に突入だ。

笹をかき分けて進む。すぐに大見町からの踏み跡を発見する。しかし長くは続かない。けもの道だったのだろうか。でも尾根の上を忠実にたどればいいだけだから、楽しい稜線散歩気分だ。周囲は落葉広葉樹に変わり、その中に常緑樹が点在していて景色をひきしめている。いろいろな種類の木があることは幹



を見れば分かるのだが、ほんのわずかししか木の名前を言い当てられない私は、もどかしい気持ちである。図鑑で調べても、なかなかそれと決めたいものも多そうだ。

P771地点を越え、次のコブを乗り越えて下り始めたが、この下りがどうもおかしい。前には谷が入ってきている。地形図を広げると、主尾根は西南方向に走っている。斜面をトラバース気味にもう一度、P771地点に戻ると主尾根に出た。このほんのちよつとした迷いが、山を深く見せて、なおのこと静けさが私たちに迫ってきてくれた。青空のもと、見通しのよい雑木林の中、日はさんさんと林床を照らし、落ち葉はカサカサと舞う。静かだ。私たちはこの山を走らなうれしさに酔って、しばし休憩する。

昔の人にとっては何の変哲もない雑木林の山が、何故に私をこんなに豊かな気持ちにさせてくれるのか。利便を追及した社会が、こういう場所を本当に貴重な場所として存在に、つくり変えてしまったのだろうか。この山をまるごと買いたい、つい口から賛嘆の言葉が出てしまった。ここでテントを

張って満月の一夜を明かしたいなあ、これは二人の現実的な会話となった。

しばらくの休憩のあと、小さなコブが続くゆるやかな尾根を南進する。どこまでもどこまでも雑木林が続く、同じ所をくり返し歩いているような気分である。葉の落ちた雑木林のすき間から雲取山方面が時々見えるが、生い茂っている頃は、相当歩きにくいことだろう。踏み跡が少しあるような所もあったが、この尾根の最高点のP877地点への登りにかかると、木や笹がそれまで以上に密生してきた。そしていちばん高い地点に到着した。三角点はないので、周囲を見まわして、断定する他はない。

しかし山頂とはいっても、通過点のような所で、よくある切り開きもなく、また灌木が密生しているの、二人でさえもゆつくりとすわる場所がない。少しあたりを探してみても、南側に少しはくつろげる場所を見つけ、昼食にする。ここは先の休憩場所のP771地点とは違い、木が細かく生え込んでいて、青空もあまり広がって見えない。いくぶん暗い感じの所だった。しかし山頂にいろいろな山の会の名前をついたプレートが打ちつけてあるような山より、格段にすばらしい。なぜに人は自分の来た所にするしをつけたがるの



大見尾根のP771付近

だろ。か。ひこつめはあつてもいいが、それ以上はゴミとしか思えないのは私だけだろうか。
 1時間ほどのんびりと朝食、コーヒを味わって、山頂を評する。ありがとうという感謝の気持ちだが、こみ上げてくる。少し前進したあと尾根は東へ直角に曲っている。このあたりまで来ると、少し明るく見通しのよい所が続く。山頂からはテープの目印もつけられていて、踏み跡もある。前が開けて林道に出た。いわゆる大見尾根の道は、もう林道だ。

昔はこの道も深い風情があったことだろう。林道を南へ花背峠方面へと向かう。先程の最高地点より1km低い三角点のある別所山(流谷山)をめざす。左手にテープを見つけた別所山の北側の尾根にとりつく。だからだと登るとすぐに山頂に着いた。杉が大きく育っていて、エアリアマップに記されている比良の展望はない。
 下山はどの方向にしようかと相談する。最も普通の考えは、大見尾根を花背峠へ行くことだが、まだ日は高く、とっぷり暮れてもなお1時間近くも待たないとバスは来ないから、これはバスとする。車の行き交う道を鞍馬まで歩くのはとてもできない。それならバスの便の多い大原へ行くと思うが、天ヶ岳をかすめる道は少し長すぎる。そこで考えついたのが、別所山より東に派生している尾根だ。これを下って陸地谷と百井川の合流付近へ降りようかと思つて少し進んでみる。しかしあまり歩きやすい所ではなかったことと、冬至間近な日であることから、いつの日かまた来ようということにして、山頂手前のコルから谷を降りる。
 地形図を見ると林道が入っている谷なので、植林されているようだ。現に少し下ると暗い植林の中に入った。植林されると林床に日が

あまり届かず、下草は発育しないから、道がなくても比較的歩きやすい。
 わずか30分程で百井町に下ることができた。百井町から南へ細峠に出て、ひたすら車道を小倉石町へ下る。この車道はほとんど車が走らないので、アスファルト道さえ我慢すれば、まず山あいの下山道としては長い方ではなからうか。長い道のりをとんどん下って行きながら、いかに百井町は高い所にある集落かが分かった。
 薄暗くなり始めた頃、小倉石町に着いた。バスを待つている間に、ほぼ大原に着けそうなので、一息入れたあとまた歩く。10分間程車の往来の多い国道を歩かなければならないが、旧道は静かで、山の端を歩ける。日もとっぷり暮れた頃、大原に着いた。
 なかなか充実した山行だった。
 (平成4年12月12日歩く)
 ▲コースタイム▽小野谷二(40分) 小野谷峠(40分) P771(30分) 尾根(1時間30分) P877(1時間) 大見尾根(30分) 別所山(30分) 百井(1時間30分) 小出石(60分) 大原(地形図) 2方5千1花背・大原
 昭文社「43号野北山2」(47頁) 北山1

連載

日本霊山紀行 11

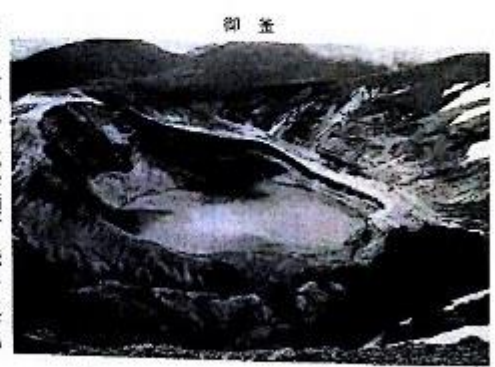
蔵王山(熊野岳)

1840・5日

浅野孝一

蔵王山は宮城・山形の県境をそびえる山で、宮城側に蔵王、山形側に蔵王温泉がある。冬期には多くのスキーヤーが集まってくる。なぜか蔵王温泉の樹氷が行名で、樹氷を見るための観光客も多い。蔵王山とは、このあたりの火山山地の総称であつて、最高峰の熊野岳を中心に五峰岳、三笠流神山、地蔵山、刈田岳がある。熊野岳の山頂には熊野神社、刈田岳には刈田神社が祀られている。
 『日本山岳志』は、「蔵王山(御嶽)蔵王山、不毛山、多摩山、蔵王山、刈田岳、高山、五彩山、白石山、御西岳、金白岳、磐城国刈田郡羽前、國前村山部二路ル、刈田郡宮村ヨリ七里ニシテ其山頂ニ達ス、標高六千三百四尺」と記し

ている。又『日本名勝地誌』は、「本名を刈田嶽と云ふ、刈田嶽の古社あるを以てなり、又五彩山・御西嶽とも云ふ、中世より専ら蔵王山と呼ぶ、山中に彼の廻行開基の蔵王権現を祭るを以て此名あり」と山名の由来を述べている。
 蔵王における山岳信仰の記録は、奈良期の『新抄拾遺抄』によると、宝亀四年(773)刈田郡神社に神封言を充てた、とある。延長五年(927)に制定された延喜式にも、陸奥國一郡のうち、刈田郡は一座、刈田郡神社として記載されている。中世、山伏修験道が盛んになると、この山にも山伏の村々が激しくなった。
 蔵王権現を大和国吉野郡から刈田市に勧



したのは、役小角の叔父願行と伝えられている。又、空海などの活動で東部神道の修験者により、刈田嶽の頂上に蔵王権現と刈田神社が祀置された。里宮として刈田山に刈田神社がある。祭神は天之水分解、天之水分解で、伊達家の東宮白石城主片倉氏の修験神として崇められた。又境内に白鳥古尊料があり、白鳥明神とも称された。
 さて、いよいよ蔵王山へ登ってみることに

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 北アルプス総図 | 34 飯野山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・出羽三山 |
| 3 磐梯湖・奥郡湖 | 36 奥郡山 |
| 4 野立山 | 37 蔵王・妙高山 |
| 5 上高地・樺・奥高 | 38 奥駒・早池原 |
| 6 奥高高原 | 39 八幡平・妙高山 |
| 7 奥高山 | 40 十和田湖・奥高 |
| 8 中央・南アルプス総図 | 41 ニセコ・羊蹄山 |
| 9 不登野・空木岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 白山 |
| 11 遠見・赤石・飯沼 | 44 霧山・伊吹・奥高 |
| 12 妙高・戸隠 | 45 御正岳・雄ヶ岳 |
| 13 天草高原・草津 | 46 北阿蘇山 |
| 14 群芳沢・赤嶺 | 47 京極北山1 |
| 15 西上州・妙高 | 48 京極北山2 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京極南山 |
| 17 ハッペイ・霧ヶ峰 | 50 北阿蘇の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 六甲・摩耶・奥高 |
| 19 朝霧 | 52 霧峰高原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 常盤山・岩倉山 |
| 21 丹波 | 54 紀伊山地 |
| 22 鳥取・備前 | 55 鳥取野 |
| 23 大高高原 | 56 大峰山脈 |
| 24 奥多摩 | 57 大粒峠・大粒・奥高 |
| 25 奥武蔵・秩父 | 58 奥野・奥高 |
| 26 奥秩父1(奥高・奥高) | 59 水ノ山・奥高 |
| 27 奥秩父2(奥高・奥高) | 60 大山・奥高 |
| 28 谷川谷・奥高 | 61 四国山地 |
| 29 船越三山・奥高 | 62 石川山 |
| 30 尾瀬 | 63 福島の山々 |
| 31 日光・奥高 | 64 九龍・阿蘇 |
| 32 相模・奥高 | 65 御岳・奥高 |
| 33 霧峰・奥高・奥高 | 66 奥高 |

●昭文社の「山と高原地図」は従来図として毎年再版発行されてきました。この冊子はなるべく最新情報を取り入れて、より詳しく、より正確に描かれています。
●昭文社の「山と高原地図」へのご購入・ご意見がございましたら、本誌編集局「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。またお便りもお受けいたします。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
電話03(3282)2141(代) 〒102

支社 大阪府大阪市西中區6-11-23
電話06(303)5721(代) 〒552

営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・東京・京都・広島・福岡



刈田岳から降り下る山々は南蔵王縦走コースで、刈田岳から足取坂、不登山を経て奥石へ下ってゆく。刈田岳駐車場から山形交通と交通のバスが上山と白石へ運行されている。東京方面へは白石へ下った方が交通の便が良い。蔵王エコーラインは蔵王連峰の東側を下り、刈田温泉

街を通って東北新幹線の白石蔵王駅へ下る。尚一日の余裕があったら、蔵王温泉、青根温泉又は刈田温泉に泊まってみたいものである。(完成5年7月3日自歩く)

●地形図 2万5千1:蔵王山
●昭文社「37蔵王」



奥野岳・瀧澤氏古歌碑前にて

する。第一日は山形県側の蔵王温泉に泊まる。蔵王温泉へは東京方面から山形新幹線で山形へ、駅前から蔵王温泉までバスに乗る。第二日は蔵王温泉から蔵王スカイケーブルに乗り中央高原駅に上がり、直道をドック沼に進む。この付近にも湧出施設が多い。三五郎小屋の前から中央高原散策路を登る。散策路は樹林帯を登り、五郎岳の分岐を経てウツボ沼のかたわら歩いて片目沼へ出る。ここにも冬期用の宿泊施設がある。ルートはパラグライダーゲートを通じて急斜面を登ってゆく。上沼に達すると北方の眺めが良く

なり、奥高山・月山・朝日連峰が見えてくる。登山道は広く刈田岳の登山道に比べて、三笠山・神山と地蔵山の鞍部に出る。小さな湿地帯を左へ進むと大きな平地帯があり、瀧澤小屋のかたわらから三笠山へ登ることが出来る。奥野岳方面への登山道は、地蔵山の東斜面をゆるり登りワサ小屋跡に着くと、前方に荒々しい山体を見せて、奥野岳が立ち上りだかってくる。東北への展望が広がると、岩のゴロゴロした斜面を登って奥野岳頂上に達する。

奥野岳の山頂は吹く、石垣に囲まれた奥野神社があり、そのかたわらに陸奥をふたむきさまに登えたまふ。蔵王の山の雲の中に立つと彫られた瀧澤氏の歌碑がある。奥野岳から馬ノ背への下りは、陸奥岳の道で慎重に行動したい。平坦な馬ノ背に下れば左下にコバルト色の水をたたえた御釜が見える。そして行く先には刈田岳が見えてくる。ここまで来ると、刈田岳直下の駐車場からの眺望客の気分は一変してきて、今までの静かな山歩きには刈田神社があり、眺望客が嫌の行列のように参道を上下している。俗界に下りて来たの感じが強い。

野外活動に伴う危険と対策

坂井 久光

我が国で、野外で出くわす一番危険な高い害虫・毒蛇は蛇であろう。無害の蛇は大したことはないが、毒蛇は死にかかると場合もあり要注意である。

一般に本州では蛇が知られているが、踏んだりしなければ咬まれることは少ない。トカラ列島に生息するハブは猛毒で知られ、毎年何人かが犠牲になっている。熱帯に敏感で、タバコの火でも飛びつくという。1月から3月までは冬眠していたり動きがにぶいと聞く。春一番が吹くころに穴から出るがまだ頻りに驚びつかないとか。4月以降から11月頃までが危険期だ。

一般に知られていない毒蛇に山かすががいる。本州各地の山野にいて、温相な蛇で人を襲ったりしない。以前は無害蛇と思われていたが、最近東海に毒があり、致死率の高い猛毒蛇と判明した。体長は1メートル程度で、黒紫色の斑紋があり、オリーブ色で目立つ色彩の蛇である。貴田舎の子供は捕えて遊んだりしていたが、咬まれて死んだという記録はあまりなかった。

野外塾

●山野跋涉行

関西アウトドアスクール
校長 二名良日

関西では、他の地域に比べ、中高年齢を中心とした、町里ウォーキングや低山ハイキングが、際立って盛んな気がします。

ウォーキングやハイキングにとつての大敵である「暑さ」が鎮まる「秋」には、「スリープス・マーチ」・「ウォーキングジャンボリー」・「かち歩き」などの「歩く」行事が白拍子で、晩秋・初冬になると、やはり「登山・ハイキング」が主流になるようです。ウォーキングにも、体力強化をめざす「エクササイズ・ウォーキング」や、タイムを競う「競歩」、地間の見方や地点通過の正確さを採点する「ウォークラリー」・「オリエンテーリング」、何回にもわたって長いコースを踏破する「○デイズ・マーチ」、夜歩く「ナイト・ウォーク」、史跡や名所などを観光的にまわる「スタンパ・ラリー」、要求やアビールを掲げてデモ行進する「デモンストレーション・ウォーク」、お祭り行事的に集団行進を楽しむ「パレード・ウォーク」、自由気ままに彷徨する「ワンダリング」、山麓や尾根道などの景観を楽しむながらブラブラ歩く「トレッキング」、社寺の神仏や聖地を巡る「巡礼」、既想・思案・親睦・レクリエーションの「散歩」、自己の限界に挑戦して身心を鍛える「かち歩き」や「耐久徒歩」……まで、実に様々なパリエーションがあります。

登山・ハイキングにも、ヒマラヤ遠征などの「極端登山」や「岩登り」、「フリークライミング」、「縦走」、「やぶこぎ」、「沢登り」、「ジャングル探検」、「樹海探検」、「冬山登山」、「夏山登山」、「春登山」、「秋山登山」……と、色々のパターンが考えられます。

そこで今回は、特に関西がそのフィールドに恵まれている、修業・鍛錬・信仰のための「山野跋涉行」的な山歩きについて、研究してみよう。

「跋涉」とは、中国の「詩経」に出でくる古い言葉で、「山を踏みこえ、水を渡ること」の意味を持ち、文字通り登山やハイキングの根幹に関わるイメージです。

日本では、「山伏」で知られる修験道などの、具体的な修業法として知られ、転じては「諸回を遍歴すること」……の意にも使われたようです。

大自然の雄偉なる神仏を究極的に体感し、一体化することにより、人知を超えたパワーや感覚や英知を獲得するために、日夜、神仏を念じつつ、山野を歩かざる……の行法は、現在も受け継がれ、比叡山延暦寺には、「二千日回廊行」で時の人となった酒井雄哉師がおられ、戦前にも、奥野玄龍師が「三千日回廊」を達成されたそうです。



犬鳴山天狗衆の魔王尊像

千日回廊の総徒歩距離は三万八千四百キロメートル、すなわち地球一周に匹敵するといわれ、その山行のすごさが想はれます。

関西の著名な山岳フィールドである大峰連峰でも、その標高千七百〜八百メートルの山峰・岩場・社祠・洞窟・滝沢・コースを、吉野・熊野まで縦走する「奥駈け」も、また有名な修験道の荒行です。

古野・山上ヶ岳の大峯山寺までの、往復四十八キロメートルを、昭和五十三年から七年間かけて「千日回廊」を成就した種沢信信師の報告を見ると、山野跋涉の荒行を通して極限に達した身心には、野性のパワーがみなぎ

り、研ぎ澄まされた感興には「数百メートル離れた人の匂いや、遠方の音も感じた」……そうです。

雨の日も、風の日も、嵐の日も、一日も欠かさずに、行け続けるマンパワーと、自然のフィールド・コースの体験情報とが相乗して、登山・ハイキングの究極の体験の場が実現する。回廊行・山野跋涉行こそは、現代の物質文明レジャー山行の対極・極北にあたる、山行の原点を見る思いがします。

山行フィールド別に調べてみますと、大峰山系の奥新修験道については、映像的にもよくわかる資料として、「聖地への旅―大峰山―」（矢野建彦ほか佼成出版）、「大峰の扉―木と石と水と空気の世界―」（鈴木義之）、「あるく・みる・まぐ」(254頁)（近畿日本ツーリスム）……などがあり、大峰修験道と双輪を成していた奥新修験道の山行の足跡を探ったフィールドワーク記録としては、「葛城回廊録―大峰山七宝滝寺―」（往時の葛城山系エクスサイズ・コースの名残を伝えてくれます）。

これらの関西二大回廊・跋涉コースのほか、全国的な山岳修験フィールドの代表的な山々をまとめた歴史の本としては、「神の山へ―山岳宗教の源流をゆく―」（宮真・新装版

永「文久公孫田原山」と深谷社）が、関西の高野山・石鐘山などを含めた、立山・白山・英彦山……など十二聖山コースをクローズアップしています。

四国石鐘山の登山口で、山岳行者の修験登山を急がながら育った筆者としては、大塚清風学園の高野山までの百キロメートル徹夜歩行に、同行させていただき、その訓練行事中に初級なってきた日野大先生の「修験道の鍛錬コースは、実登型でなく、山腹上下型が多いようです」といわれた言葉が今も耳に残り、今夏に連続出版された、「山上・深谷」の別冊の「アルプス大縦走」(宮橋信幸・山と深谷社)などの特選雑誌の写真を見ても、ついつい跋涉・回廊行コース的に見えてしまっている自分を発見して驚き、ちよっと特殊かな?と思いつつ、山野跋涉登山を取りあげさせていただきます。

少し前と最近にテレビで見た、前記の酒井師の、中国五台山の修業的登高や、以前に訪ねたことのある関東半島の、まさに「山野跋涉」という言葉がピッタリの、関東修験道回廊コースの自然修業行を思い出しながら、登山・ハイキングコースを、自然修業修業的な見地から見直してみるのがオモシロイ……と思いつつ、再点検を提案してみた次第です。

京、北山独りある記

ブナノ木峠

前中

毅

京都北山

北山は京都市街の北端から遙か福井県との境まで続くが、その中で最も魅力的な地域の一つは芦生の山々や渓谷だろう。山良川源流域の芦生は、1921年から明年期の契約で、京都大学が地元から地上権を借り受けて、管理運営する演習林が静かに広がっている。この緑と水の森は、学術研究のフィールドとしてだけでなく、ブナやトチ、高生杉など、全国的にも貴重な原生林が残されていることでも知られている。

京都の山好きの人達には人気のある芦生だが、なにしろ若狭のすぐ手前で、いかにもアプローチが長い。日帰りハイカーの私は、いつも車を地蔵峠まで乗り入れる。半月ほど前に、地蔵峠から生杉の若狭峯谷

を廻り、クナクボ峠を経由して三國峠へ登った。日本海の潮の音が届いてきそうな三國峠からの眺望や、長治谷源流付近の見事な錫細の山肌が、今も脳裏に焼きついている。波の私にはうまく表現できないが、芦生には私を惹きつける何かがある。そんな引力のようなものに手繰り寄せられて、今日も芦生へ行く。その山域の最高峰、ブナノ木峠(939.1m)が目的だ。

車で、久多川台から針畑川右岸を北上する。幾つもの集落を通り過ぎ、朽木村最奥の生杉から、峯越峠を地蔵峠へ。峠の平大演習林への入り口には門扉があり、諸車進入禁止で、手前に駐車する。10時

ブナノ木峠への登山道にて



25分、軽クウォーミングアップして、演習林への入山扉に記入する。小さな石室に安置されたお地蔵さんに挨拶をし、四屏の扉から芦生に入る。林道は左へ延びるが右の細い道を下る。伏流していた水が地上に現れて、細いながらも奔り出す。枕谷の支谷で、木の孫谷だ。左に《船野ブナ》と標識の付いた立派なブナの木があり、早くも原生林へと誘ってくれる。枕



り、符頭と合わせて急登を立て、深淵がごとく山中を移動していた。第3代元徳帝の皇子、惟喬親王をその始祖と仰ぐ山の民だ。左に由良川本流の小道が降りてくる。須後の演習林事務所まで、約15分におわたって流の深谷美が癒くのだが、危険な場所もあるようである。建物の熱線が向いた。私は下谷左岸の林道へ入る。緩い上り坂で、大カワラの保存木や杉などのある保存林を左下に見て進む。10分ちよつとで駒の木平に着く。右の山手に池ノ谷の遺構があり、長治谷まで山越えの歩道があるようだ。この辺りの山や谷には濃い緑の杉も目立つが、それ以外の樹木はすでにほとんど落葉したあとで裸木が寒々しい。3月ほど前には紅葉で化粧して華やいていた芦生の山々が、もう冬支度を始めたように淋しい気もする。しかし今日の天気は最高で、今年はこの日に暖かく思われる。汗ばもう無くだらう。汗ばんできたが地蔵峠からここまで1時

間余りだった。休憩にする。また少し傾斜を増した林道を樽坂へ向かうが、下谷を挟んで左奥の崖から一条の細い滝が見え隠れする。ノリコの滝だ。落差30m以上はあるのだろう。流の速さと樹木に惹かれて定かたはない。樽坂から更に急になる。右から滝を懸けた谷が轟音を発して降りてくるのを眺めつつ橋を渡り、登り着いた峠が樽坂だ。林道の広い要所十字路だが、左の山腰に道標があり、ここがブナノ木峠の登り口で、1・2・40分となっている。芦生を歩く度に感心するのだが、道標の設置地点が必要最少限でタイムリーだ。こげ茶色に焼きの入った薪木木の道標には、行先・距離・時間が白とサビ朱色で書かれていて分かりやすい。その他私製のものも全く無い。そして色テープの一片も無く、この山城独特の清さを守っている。12時15分、ブナノ木峠の山頂を自指す。取りつきから南へ向かって5分ほどの所で、細い木々が左へ彎曲している。かなりの数だがそれは道の東側だけで、西側は同じ木でも真つなく伸びている。風が、雪の影響だろうか。またはその向日性が原因だろうか。落ち葉がふわふわとした感で心地良い。紅葉というより新緑と表現したいほど厚く積もっ

ている。道脇の小笹が足首を撫でる。腰板から山頂までの標高は僅か160mほどで、ゆったりと周回し目を配りながら歩ける。機と機よりの良い杉が寄り添うように立っている。辺りから、いよいよブナ一族の登場で、一本ずつ、その目撃さに目を覚ます。

左の樹間から近くの山が見える所を通り過ぎて、イワウチワの群生する小広い場所に着いたが、古い切り株がまるまる忘れ物のように笹の中に点在し、うす暗い樹林は幻想的だ。行く手の左右にブナの大木が待ち構えている。写真を撮り、ブナの木ゲートとメモする。

幹が白っぽく見える樹林の中に、樹皮を引剥かれた杉がある。これはクマハギだ。本や写真などでは何處も見ているが、実物に接するのは初めてだ。「胸があるのか」と一瞬考へ込んだが、西生は熊の棲息地として知られている。この登山道に出発しても不思議ではない。誰にも出会わない一人歩きを高笑いしていたが、今は少々心細い。

気を持ち直して、右の急坂の道を見送り直達する。間もなく分岐で道標があり、左は、峠から中山への縦走路だ。ブナノ木峠は右へ10分。ちと登って下った所から、大木の間に直登の道があり、ずつと上の方まで延び

ている。これを登りきった山頂だろうと二気に登る。右が開けて遠望できる山の連なりは、若丹国境根原のようだが、立ち止まらずに黙々と登る。急登はフィニッシュ直前の5、6分だけだったが、それなりに疲れた。

12時50分、ブナノ木峠の山頂は、秋の陽をいっぱい浴びて待つてくれた。三角点の橋にしゃれた形の山名標があり、標高939.1mと記されている。山頂広場は楕円形に笹や草が刈ってあり、木のベンチが用意されている。樹相はほとんどが西生杉で、その他の中小木も疎らに立つ。東傾斜のある山頂だ。大杉群の切れ目から眺望がある。東に三國峠そして右へ天狗峠を見る。杉を5本ばかり間に挟んで南東にヒラミダツ山が見える。距離からすると、小野村割坊だと思いが、見る角度は違うがダンノ峠から眺めた姿のいい桑谷山にも似ている。西西へ小野子西谷の深い切れ込みが豪快に降りている。更に右に目を転じると、重畳とした尾越のような北山のうねりが面へ延びている。

「頂上は名の割には期待外れであった。杉と雑木に囲まれたありふれた里山の頂上とかわりがなかった」(昭和62年4月)。これはブナノ木峠山頂の様子を記述した某書の内容だ。

だ。長治谷はようやくその全貌を見せてくれる。周囲は杉の森林から自然林に変わつてきた。何處も木標を設ける。すべり止めにダイヤモンドの切り込みを入れてあるのだが、どれも飛ばに濡れていてすべりやすい。

谷間はぐつと広くなったが、大小の樹木が多くてうす暗い。古木には首がびっしりとはり付いている。からむ藓草と藓に絡めつけられても悠然と根を張りびくともしていない。シダの下生えの原生林にはユニークな形の木もあり、歩道近くの何本かのそんな個性的な古木にも足を止めさせられた。今は木の葉が無くて残念だが、樹頂頂の暗々しいこの森に足を踏み入れたら病みつきになるだろう。前方が明るくなり、谷の出口の芝地が見えた。

長治谷作楽所から20分で夕暮れの地蔵峠に戻った。今日の山行が楽しく、無事に終わったことを感謝して、お地蔵さんに手を合わせた。(平成4年11月19日歩く)

△コースタイム▽
地蔵峠(20分)長治谷作楽所(45分)池ノ谷(25分)標坂(35分)ブナノ木峠(50分)池ノ谷(20分)ピーク8003(30分)長治谷作楽所(20分)地蔵峠



ブナノ木峠山頂
長治谷の端、流だらう。左へ木橋を渡つた所に小谷がくると、ここは三つ谷の台地地点



△地形図▽方より久多
昭文社「148 東京都北山2」
※ 地蔵峠へは、京都市の中心部から車で約2時間

山合
6527-01 滋賀県栗原郡栗原町下里5
0749(45)2458 0746-67011
0749(45)2458 0746-67011 1600円(1260円)
0749(45)2458 0746-67011 1400円(1260円)

高野山南部の尾根と溪と山を巡る

北桶谷より陣ヶ峰

高野

酒井賢治

遺目 大阪低山談話会の慶佐次会長と山談義をした折、話題が三角点の研究におよび、貴重な調査資料まで頂いた。

氏は山の会を主宰される一方、三角点についても随分と精通されている様で、大衆楽しく話を聞くことができた。それ以後私も三角点に興味をもつようになった。

日頃、三角点を付録した山の会も目にするし、山紀行文などで「三角点標石に手を触れた」とか「標石が移動していた」、「標石は見つからなかった」などと読むことも度々で三角点を目的に登山している人は多いようだ。私も昨年大峰の釈迦ヶ岳で「第三三角点標石を写真に撮り、満員バスに下山していった遠方からの岳人に出会った。山の楽しみ方はいろいろあるものだ。

ところで慶佐次氏から頂いた資料によれば、私の住む奈良県下には一等から三等まで、三角点が無数で394点あり、その内一等三角点を持つ山は11座あったが、その中で高野の陣ヶ峰と果無山脈の冷水山は未踏であった。果無の最高峰・冷水山は別として比較的足の踏み入れやすい陣ヶ峰が天踏であったのは、この山の東側山腹に高野から上垣内へ立派な林道が通過しており登山の妙味が半減しているためで、この山より更に奥にある伯母子岳や高神岳への登山の際も素通りで、さして気にも留めていなかった。

北西の尾根から見た陣ヶ峰



く気になるものだ。そんな訳で陣ヶ峰に初めて登ったが、林道歩きなどの準備を怠るため少し遠回りし高野山より陣ヶ峰(大滝道)の尾根を歩き、一旦大滝に下り、陣ヶ峰の西面に突き上げる北桶谷から登ることになった。これが意外と変化に富んだ楽しいコースだったので紹介する。

11月14日、難波発7時前の南海電鉄高野山

ゆき急行に乗り極楽橋でケーブルに乗り籠

ぐ、大型のアタックザックを背負った若者が4人同乗、彼らは伯母子岳から陣ヶ峰(陣ヶ峰)までの間で、高野山口から乗合タクシーで走り去っていった。私も二週間前、紅葉の伯母子岳より五百兩への熊野古道を歩いたばかりだったので何かしら懐かしい思いだった。

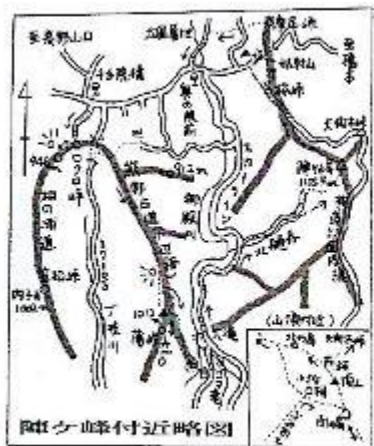
バスに乗り9時すぎ千手院橋バス停でおりる。金剛三院院への参道に入り、門前から右の舗装道路を登るとすぐに民家も途絶える。

地道になった幅広い静かな林間の道を20分も登ると、前方が明るく開けたロクロ峠に到着いた。ここは昔の太滝口女人堂跡で高野登山

七口の案内板や道標がある。

右の丘状の標線から9.4mほどピークまで登ると、周囲の展望が開け、南は国道371号線の通る一ノ谷川の谷をはさんで、右に相の浦道の尾根、左にこれから歩く大滝道の尾根が南に延びて、遠く高野の山々が霞んで見えた。北は熊野山、藤原山、鞍馬山、弁天岳などが、高野の町をとり囲んでいる。ロクロ峠にもどり、道標に従って大滝への熊野古道(小滝道)を緩やかに登る。小型自動車が通れそうな幅広い尾根道は、登山コースというより完全なハイキングコースである。古道がこんなに立派な道となったのは、恐らく尾根の南端ピークにある関西無線中継塔の工事用道路として開発されたからだと思われる。進むにつれて西から北方向の展望が一段と良くなり、一ノ谷川の谷を隔てて内子山や相の浦道が通る大きな尾根、その向こうに天狗居の双耳峰も頭をみせ、背後には高野三山の山々と遠く和歌山城山や三日月山など紀伊半島の山々がスカイラインを描いていた。

更も所々で木立が切れ、これから登る陣ヶ峰と北桶谷を望むことができ、やがて道は高野山脈の樹林帯に入り、小さな石仏が祀られた薄暗い



陣ヶ峰と北桶谷付近の地形図

た、時のすぐ右の樹林の中に1001.2mの小高いピーク、更に少し進むと大きな関西無線中継塔が建ち、その奥から相の浦への細い山道が下っていた。標線の中、峠で小休止。大滝への熊野古道は峠から少し北へ戻り東に入る幅広い道をゆく。道はすぐ右の山を越え、ゆるゆると下り、尾根の腹をまくようにゆくと、やがて峠谷と千手院谷の中間小滝道まで急坂となり高度を下げる。背後には高く無縁中継塔が青い空の中で銀色に光って見えた。

木立の中を古道を30分も下ると、傾斜も緩くなり開けた平地に下りつく。のびやかな平地に一軒家があり、御殿川の谷を隔てた向こう側の止腹に高野山脈スカイラインを見える。辺り一面紅葉に輝かれた静寂増々。細い峠道を下ると道はコンクリートの削毛引き道となり、電光石火に下り切った御殿川の谷底についた。清流が小滝や瀬などの美しい渓谷をつくっている。鉄の橋を対岸に渡り、急な坂道を登り返すと左に一軒の民家を過ぎスカイラインから大滝への林道に出た。ここは「新家へ」の看板がある。道コースの際より目印となる。左眼下に御殿川の渓谷を見下ろし林道を北へ進む右へカーブすると、ようやくスカイラインの橋梁が手前に見えた。この辺り



陣ヶ峰・北の肩から北極谷と熊野古道の尾根を望む

方向も高野北部の山々、殊に深い谷を踏んで摩尼山から東へ下る長大な尾根や七野山が素晴らしい、金剛や紀伊山脈も遠望できた。南方向も遠く淡路山・伯耆子岳・荒神岳など奥高野の山々が連なっている。こんな素晴らしい展望の山に今までどうして登らなかつたのかと反省する。ここで一時間の大休止。14時30分北の肩を出発。不明瞭な北西尾根を下る。東側は杉や檜の深い植林、西側は明るい切り開きの斜面が北極谷に下っている。西側の展望を羨しむつつ、植林と切り開きの稜線につけられた踏み跡を忠実に下ると、道は徐々に明確になり、やがて雑木帯に入ると展望も絶え、北の肩から30分程で林道に出た。【熊野古道区画・環状路】のプレートが立ち小さな木の椅子がつけられている。林道出合いから15分で植林に着いた。途中、樹々の間から陣ヶ峰が雄姿を見せていた。桜時からは林道歩きを止め、一軒家の左に付いた山道に入り摩尼山へ出ることにした。ヤブ道だが少しゆくと稜線が大きい開け泰山谷の深い切れ込みと重畳たる山並みを見る。今日最後のの大展望だった。やがて姥御山の頂をまわると松の多い緩やかな坂道となり、まもなく摩尼山（奥の陣ヶ峰）につき一息入れた。

摩尼山への坂道を少し登ると桜の太木が繁

雑木に小さな谷が本流に流れ込み、ゴマ瀝や大流が豊富な水量で急激に落ち、対岸の山肌も赤や黄色に染まり、素晴らしい渓谷美を呈していた。ここで再び小休止。スカイラインに出るとマイカーの往来で一時的に現象にもどされる。北へ、短歩くと右側に北極谷への林道があり東へ入る。入り口に「カモシカ標地城・文化庁」のプレートが立つ。林道に入るとすぐ橋を左岸に渡り、地道の緩やかな坂道を突進。左右の山の斜面は茂密な杉や松を植えたらしく、毛をむしられたプロイラーの如き山肌が痛々しい。深も水不足しく奥深さや渓谷美に欠けている。ひと気の無い林道を、幾度かカーブしぐんぐんと奥に入り、40分程で林業小屋の建つ広場に着いた。谷はここで小さく二つに分かれ、中間に丸い小尾根が下ってきている。昭文社・エアリアマップではこの尾根に破線が描かれているが、それらしき道は見当たらない。仕方なく細くなった林道を左へ回り込むように進んだ。谷を形成する尾根が頭上を圧し、モチカン刈りのように植林を頭に残した陣ヶ峰が前面高く聳えている。左の谷でガサツと音がして、黒茶色の苔をした大きなカモシカが一回、雑木の山肌を駆け登っていった。初めて入った谷でいきなりカモシカに出会うなんて

……私は改めてこの辺りの山深さを認識させられた。カモシカも闊入、老にぞびつくりしたことだろう。

さて、ここからが今日の本番。林道はここで絶え、左の尾根も谷も雑木の深いブッシュにおおわれている。思案のすえ、比較的見通しのよい中間小尾根を登ることにした。幸い頂上は見えているので楽だ。手袋をはめ、イバラや低い雑木をかき分け急な傾斜の中間小尾根の山肌を登った。15分程の急登でアッシュから逃れ、松や雑木の植林に入り、更に小枝をつかんでの急登で、やっと丸い植林に出た。踏み跡らしきものがあり、忠実に歩幅を登った。やがて踏み跡は左が杉の植林、右は伐採直後の切り開きの中をゆく。南側の展望が一気に開け、大きな尾根の向こうに奥高野の山々が複層に入った。前面に緑の植林におおわれた陣ヶ峰の頂上部がなだらかに積たわつている。

切り株やイバラに注意しながらカヤトの中の踏み跡を歩き、やっと山頂直下で南北に通じる踏み跡道に出合った。ここから頂上へ小さな荷が配られていた。トカと頂上への直登道はなく北北どちらかの両に出て登り返すようだ。とりあえずカヤトの中の踏み跡をたどり南の肩に出ると、北向きに陣ヶ峰へ踏み

跡が上がっていた。南へ続く尾根に踏み跡があったので、5分ばかりヤブこぎすると樹間より頂上と広がる山並みの向こうに、稲杓ヶ岳・山上ヶ岳あたりから八経ヶ岳・七面山・仏生ヶ岳・釈迦ヶ岳などの大峰山脈を遠望することができた。すぐ下の林道を通過する自動車音が聞こえる。もとの肩に戻って植林の向の踏み跡を登り返し、13時頃陣ヶ峰の頂上に着いた。

植林の中の平坦地に立派な一等三角標が石が埋め込まれていた。頂上部は南北に細長い平頂峰で、50分程北へ歩いた地点に立派な金比羅さんの祠があった。東側は深い植林だが北から西へかけて高野の山々と、今日歩いてきた熊野古道の尾根や北極谷の全容が展開してきた。

さて、下山は祠の前から東へ天狗木峠への小道があるが、これを下れば林道歩きが長くなるので、北西方向の尾根に沿って下ることとした。少し下って北の肩に出ると素晴らしい展望が得られた。東方向は高野東部・西吉野・大峰前後の山々が重畳とした山並みを見せ、遠く四寸岩山あたりから行者道沿あたりにかけての大峰山脈がスカイラインを描いていた。先陣見えていた八経ヶ岳以南は、陣ヶ峰東尾根に導かれここからは見えない。北

ついている。峠からは西へ坂道を下り奥の院林道を通り、一刻して弘法大師廟近くの林道に下山。立派な石塔の立ち並ぶ高野山公園敷地を歩き、16時過ぎ、奥の院口バス停に着いた。

バス停付近に紅葉見物のマイカーや観光バスの人々で都会なみの混雑。私はすぐ高野山口へのバスの客となり奥の院を後にした。

後に慶佐次氏から聞いた話だが、故今西藤司博士も昭和26年8月27日にこの山に登られているそう。今のように立派な林道がなかった当時、博士はどのルートをとって登られたのか。思いがつののであった。それにしても本コースは高野といえはまず取り上げられる高野三山廻りなどよりも、格段に楽しい変化のある山歩きであった。

(平成4年11月14日歩く)

ハコースタイム

千手院橋(20分) ロック峠(94分) ヒック
竹敷20分(40分) 蕨時(40分) 御懸川の橋
(40分) 北極谷出合(20分) 陣ヶ峰(40分) 桜時(30分) 摩尼山(30分) 奥の院口
(地形図) 昭文社「55奥高野」

京都北山

ほんまのはなし (最終回)

北川 裕久



第31話

父親になった日

昭和60年11月26日。

私の山歩きが大きく変わった日である。長男誕生の朝は、前日からの寒波の影懸だろう。北山の峰々に薄っすらと白いものが輝いていた。

病院から長男誕生の知らせを受けた私は、オンボロ4WDに乗って会いに行った。病院はすぐ近くののに、早く見たいがために、わざわざ車を出した。長男は保育器の中で真っ赤になって泣いていた。全身産毛だらけの小

きな赤ん坊だった。時々泣き疲れて、オキナー・オキナーがか細くなるが、看護婦さんにミルクをもらおうと目を開けてゆっくり飲んでいく。

今までのいろいろと好きな事をやっていた私は、とうとう父親かという気持ちにはなつたが、まだそれはどの実感がなかった。それから家内と会い、早朝の寒く冷たかった分娩台のことを聞かされた。

子供を産む苦さは、男性の私にはわからないが、きっと今まで生きてきた人生の中で一番辛い思いだったと思う。それでも嬉しそうに話してくれた家内の顔は、人として、母親として最高にいい顔をしていた。

それから約1週間、毎日病院へ面会にいっ

た。その当時、私は機を捨て、ガイドブックの調査・執筆を終えたところで、次の仕事を探しながら電子土壌のアルバイトをしていた。――子供が産まれた時、父親は言わば無職であった。従って出生届の父親の職業欄には臨時工と記入されている。

病室で家内の横に眠る赤ん坊を時々抱かせてもらった。2700gのあまりの子供はもっともっと軽く感じた。

「とうとうオヤジになってしまったなあ、もうあんまりあはな市はでんきなあ……」

と言いつつ、あれこれと父親としての実感が湧いてきた。それでも私は2週間ほど1回ぐらゐの割合で北山へ出かけていた。

今から考えると、家内は私にもっと家に居てほしかったと思う。そして家内も行きたい北山の話で、帰ってきてするものだから辛かっただろうと思う。

なんと酷いことをしたものだ。後で反省しても何人にもならないが、私も父親なら子供の面倒を見るのは当然で、母親任せにしてはいけないと、だんだん山へ行く回数を減らせていった。

そして子供が三歳になる少し前の11月、家族3人で美山町の知井坂から八ヶ岳を目指した。山頂まで行けなくても途中まで止せば

いいから、ゆっくり行こう」と3人で歩き始めた。30分も歩かぬうちに子供は「グッコ、グッコ」の連発。それでも嬉しそうに落ち葉を踏みつけては投げ捨てる。自然の中で戯れる子供の姿は、いいものだと思つた。

と時間ぐらゐ遊びながらゆっくり歩いて、少し早いが昼食とする。持参したゴツヘルとコンロで雑炊を作つたら、もの珍らしそうにじっと見ていた。それから美味しそうに喜んで食べてくれた。何卒も八ヶ岳へは登つていゝるが、それまでは、まさか子供と一緒にここまで歩くとは思ひもしなかつた。

その日は無理をせず山頂をあきらめ、落ち葉や小枝で遊んだ。もう私は父親である。子供のためにも危険な場所へ身をさらすことはできない。そう思うと、だんだん腹痛になつてきた。まず、進行性腹痛といふことがなくなり、下山時刻も以前より早くなった。計画も慎重になつたし、突然、朝の思いつきで出かけることもなくなつた。年間の山行回数も半分に減つた。

『男の子が五年経ち、次男が生まれた。家内もようやく子供から手が離れ始め、山へも行けると思つていた矢先に、二人目の子供ができた。彼女は可哀相に又、子育ての毎日を送ることになってしまふ。私の山行回数も

考えられないくらいに減つてしまひ、休日は子供と遊ぶ日が多くなつた。

もう山への挑戦的な考え方も遠ざかなくなり、今後は子供を連れての山行となるだろう。私も随分北山を歩き回つた。まあ行きたい所はあるが、ひとまず自分のための山行は休み、これからは今まで見てきた北山の素晴らしい風景を子供たちにも見せてやりたい。

第32話

ガイドブックの裏側

山を歩く参考書としてガイドブックやコースタイム入りの地形図がある。

私も北山のガイドは幾度となく書いてきた。しかし書く度にコースの状況が変わつてきている。何度も歩いたコースでも最新情報でなくてはならないので、ガイドを書く前には必ず調査をする。

調査と言ってもガイドコース上をトレースするだけで、較れ道や周辺部の山道までは調べたりしない。そこまで調査するとは時間的に余裕がなくなつてしまふからである。私の場合、メモと筆記具をいつでも取り出せる場所に入れ、コースの分岐や勾配、道の

状況、樹木や鳥、昆虫等に至るまで記入してゆく。それから写真を撮り、スケッチをする。忙しくて、山をのんびり、という気分にはなれないが、時々、自分の感情までも記録する。そして最も大事なことは他の季節を想像することである。

私の場合、一つの山をほとんど四季ごとに歩いているので、季節の想像には問題ないがまた歩いていない季節の山は、周辺部の山へ登つた時の状況を思い出し、その山に当てはめてみる。

なぜそのような想像が大切かと聞くと、ガイド調査・執筆依頼の期間に問題がある。例えば5月に出版される本は、約一カ月ぐらゐ前の3月中旬に原稿を前送なければならぬ。このことは、原稿の依頼は2月である。一年前から原稿を依頼するという出版社はまづないだろうし、もつと期間の迫つたものもある。例えば10月後に原稿がほしいといった無茶苦茶な依頼も時にはある。このような場合、断わることが多い。

こうなる次の休日には大雨が降ろうが台風であろうが調査に出かけなければならぬといふことになつてしまふ。そして帰つてすぐ執筆、地図を直し編集しなければならぬ。かたりのハードスケジュールになる。

私は、写真も全て自分で現像し、プリントする。比較的短期間で原稿を揃えることを心掛けていた。ところが、一つだけ、どうしても揃えられない物がある。それは、季節感溢れる写真である。3月に3月の新緑が撮れないし、まさか残雪の写真を掲載するわけにもいかない。そこで私の考えたテクニクがある。この、ほんまのはなし。の中で特別に話そう。ガイドブックの写真はほとんどモノクロである。その為、撮影にはモノクロフィルムを使用している。

増雪期以外の写真を撮る場合は、夏・冬以外の季節、つまり4・6月、9・11月の期間に、カメラのレンズの先端に特殊なカラーフィルター(トーン変換フィルター)を取り付ける。黄、オレンジ、赤、グリーンと様々な色のフィルターがあるが、それらによって葉のトーンを上げたり下げたりしながら、次のような撮り方をする。新緑の時に秋の写真を撮るなら、グリーン系のフィルターをかける。すると葉の彩度が上がり白く写る。また、赤のフィルターをかけると葉は黒く写り、紅葉した頃と同じような赤銅色の写真になる。10・11月の紅葉期には赤のフィルターをかける。葉は新緑のように淡い色に写る。このテクニクを

使つても短期間はどうしようもなく、寫の写真は糊り油めしておくしかない。

それから私が一番苦しいのが、本文の字数である。字数に制限がなければいくらでも詳しく書くことができるが、短くなければならぬ。コース状況に重点を置くか、季節感溢れる文章表現にするか、又、時や石仏の説明、歴史的な面に重点を置くかどうかで全く違うガイド文が出来上がる。限られた字数で全ての要素を盛り込み、ガイド文を書き上げるのは至難のわざである。何度も書き直し、訂正を加えてやっと出来上がる。

そして写真をプリントして地図を書く。コース状況に間違いはないが、もう一度メモと照らし合わせ、出版社へ提出するわけである。メモの取り方にも色々あり、自分だけの記号を作り、よく出くわす杉林や松林、灌木叢等はそれぞれ①②③とメモを取ったり、分岐をメモする時には矢印を多用する。

地形図の拡大コピーに直接メモを書き加えたり、ユニークなところでは、雨天の日はメモ帳や地図を籠繋ぎに出さないで、携帯用のカセットレコーダーを使う。小さなマイクを懐電に止め、コース状況をしゃべりながら録音する。ガイドブックをそのまま読むように話す。これを試みた当初、再生しても何が何

んだかわからずに苦悶したが、聞れてくるとメモや地図にたよるよりもずっと詳しく書けるようになった。

色々な苦勞をして出来上がった原稿は出版社によって編集される。写真や字数も幾分かカットされ、そのなかに詳しく説明してあるコース状況も削除されたりする。

それはレイアウトの都合上仕方ないことで、読者の方の目にはもう少し詳しく書いてあれば……という苦悶も多い。

そして何より心配なものは活字である。出版社で編集をする人達は、コースを一つ一つ歩いたわけでもなく全く全く登山者の経験にたよって何度も校正するが、右と左が間違っているのに気付かず本朝にかけてしまつたというミスが時々ある。

こうして出来上がったガイドブックは書店に並び、ハイカーの皆さんに買ってもらえることになる。ガイドブックの歩路は5年で一回か再版される。その度にコース状況が変わってしまった山はないが、全てチェックしておかなければ再版時に訂正が必要。

5年間、自分の書いたコース全てを歩き続け、林道やその他の工事等や変わってしまった所はないか、いち早く状況の変化をキャッチしなければならぬ。多人数の山の会芸なら

手分けして全コースの守をすればよいが、少数だとそうはいかない。

私の場合、読者の方々からいろいろなお便りを頂き、コースの変わった部分等を教えてもらつては出かける準備するといつたふり、読者にほとんど助けってもらつた。

中には苦情やいやがらせも沢山あったが、どんなことにも怯まず対処してきたが、歴史的な事を聞かれると知つている範囲でしか答えられず、字の無さに悔やしい思いをした。

それでも、知ったかぶりをして歴史の資料を丸写しするよりも、わからない事はわからないと答えるほうが突つ込まれずにすむ。いい情報、シイは必ずシッパ返しがくると噂うことだ。

最後に原稿料と印税についてお話ししよう。出版社によってある程度は決められているが、有名な人になつてくるとプラスαの部分が大変大きい。その他の出版については、原稿料紙を支給してくれる出版社もあるが、ほとんどは所定調査費や交通費等一切出ない。遠方へ出かけたなら、それこそ原稿料だけでは足が出ない場合も少なくない。

全般的にこれだけは言える。ガイドブックにコースガイドを出しても決して儲かる仕事ではない。それより、お金に換えられないも

のが得られる喜びは、苦勞あつてのものである。

以上のようにガイドブックの執筆についての苦勞はおわかり頂けたらと思う。そんな苦勞をしてまで書き添付するのは、やはり北山の良さを少しでも沢山の人の心にかけてもらい、北山の道をどんどん歩いてほしいからである。

第33話

恐怖の針山

どこかで見た地蔵絵巻ではないけれど針の山を歩いたことありますか？

つまり鞍馬カマツが渡る山のこと、北山のネマガリダケが繁三する山に多い。そんな山根の中で、任々里から大段谷山の尾根筋にかけて歩いた時、死ぬ思いをしたことがある。

昭和36年の11月下旬、任々里に車を置いて、晩秋の大段谷山を白拍して歩き始めた。紅葉は終わらな茶褐色の葉が辛うじて残っていた。樹木は、ブナの木はすっかり葉を落としていた。晩秋というよりも初冬の感があった。由良川筋の若生百少年山の家と任々里時・灰河原を結ぶ尾根道は整備されていて歩き易

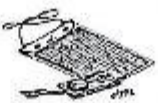
い。その尾根の末梢に突き出た山が大段谷山で、大段とも呼ばれているが、正式な名称は大段谷山であると言った。大段谷山への公衆には当時小さな道標が取り付てあつた。その道標へ一歩踏み込むと、今までは一変して濃密なネマガリダケのヤブに埋まされる。現在このヤブはどうなっているかわからないが当時は深いものであつた。尾根を少し登るとネマガリダケの類類をブッシュ。背丈程はあるだろう。このネマガリダケジャンクルをどう通過するかで大段谷山までのタイムが決まる。

あちこちナダで刈つた形跡があるが、どれも不均一で足元をよく見ているとタケの幹が手前所にフンツンと突き出ている。私も気を付けていたが気が焦つていたのでちよつと注意が足りなかつた。ネマガリダケの樹元を踏み倒したとたん、根元の部分で滑つてしまった。瞬間的に足をついた所が不運にもネマガリダケを斜め切りにした針山の発生する場所だつた。

竹がブツブツと私のふくらはぎに刺さつた。勢よく転んだものだからさうさうには突き刺さつたろう。ニッカーホーンにニッカーホーンだった私は、雨にならぬくらいにの怖さに、滑るというよりも、ブッシュの

ような条件の時は、なるべく北側に近い斜面を避けるようにしている。岩場の続くような場所しかない場合は、そのルートは断念し、他のルートを新たに計画することをすすめる。断念したことで、このルートは何もならなかったわけではない。目的の山へのルートの全貌を知る上でこれも重要なことである。山頂へ通り抜くことだけがピークハンティングではない。その山の全貌を知る一つの手段がピークハンティングの目的でもあると思う。

最終的に山頂も、もちろんアプローチも同じような条件を満たす支尾根なり、谷筋なりを地形図上から探すことが絶対条件である。下山の場合、北山に限って言えば、支尾根をとるよりも谷筋をとった方が道なりに早い場合が多い。但し、夏場の谷筋は草の成長が著しいので、なるべく避けて頂きたい。虎伏から新冬にかけては、尾根の見通しも良くなって、ピークハンティングには絶好の時期である。一度、近くの山から歩かれてみてはどうだろうか。



第35話

エピソード(目標をもつて)

京都北山。ほんまのはなし。を書き始めた頃、北山の素顔はどんなものか、私自身にもわからなかったため、ほんまのはなしを書き綴っていくうちに、何かが見えてくるのではないかと期待しながら筆を運んだ。頭の中はなつかしい思い出や、北山への思い入れがいつぱい湧き上がるだけで、北山の素顔を見つけて出すことはできなかった。私自身が見えなかったのが、読者の方々に北山の素顔が見えたのだろうか？

もっともつと百端ぐらいを白線に書いておくつもりだったが、新年度より新しい企画もあるので、ひとまず話をもつて区別させてもらうことになった。

私と同じような体験をされた方、又、同じような意見をもたれた方、そして北山歩きのエッセイをこのエッセイから選り抜かれた方、ほんまのはなし、は今までになかったエッセイ集だったと私は思っている。

まだまだお話ししたいことは山ほどあるが、この先どのような形で読者を発表するかわか

らないし、単行本として百端を一冊にまとめるかもしれない。

何れにしても、私の一方的で無知な文章に付き合ってください。読者の方々に感謝します。

唯、これだけは言えたい。山を歩く事にも他のどんな事にもっとも目標をもつこと。大きな目標でも小さな目標でも、それらを一つ一つ成し遂げてゆけば、次第と新しい道は開けてゆく。一つ一つの山を踏破するのと同じように、一気に登頂は成るのではない。一歩一歩自分のペースで歩いて頂きたい。

北山の道。

それは、あなた自身の

人生の道なのかもしれない。

京都北山。ほんまのはなし。全話話を読まれた感想をお聞かせ下さい。

紙欄を書くにあたって参考にさせて頂きたいです。

〒612

京都市伏見区深草川久保町6の3

北川 裕久

京都北山

やぶ漕ぎ痛快山行記

(12)

晩秋の白倉岳三峰縦走

しめくろたけ

朽木村に入り、尾根を渡ると、東西に延びる山のような三つの懸崖が望まれる。その右端の一番高いのが白倉岳(949・948)で、朽木村のへの位置に座する。等三岳(高)村界(府置)にはその右より標高の高くない約(1000)を三回(9)があるが、朽木村内では最高峰である。私がこの山に魅入られたのは四季を通じて、武奈ヶ岳・美奈ヶ岳から見るこの山塊と四つの谷筋の峻険様だ。京都北山の奥にこんな素晴らしい山群がとっぴらになって以来7年になる。

最初、この山に入るにはガイド帳も無く、KクラブA氏の日野谷御行で登頂した記録を

読んだが、2万5千の地図にある村界から小川に通ずる縦線路のルートについては触れていない。

京都北山グループ

何かこの山への登山者資料がないかと、朽木村観光課に尋ねたところ、公社の植林道なりに不明なこと。地元井原氏の費用を借りて、約1000mの距離から、尾根道となり、ブッシュがあつて中道で登るなら、植林谷林道から植林公社の仕事を利便して、植林道に取りつくと良いと教えられた。昭和61年4月20日の例会に参り、7名のパーティーで出来たての植林谷林道を終点までつめ、右側の植林道後の仕事をトラバースして、尾根に取りついたが、跡跡探しも難しい

白倉岳・中岳の伏休台杉にて



山であることを知った。下山路にも八幡谷ルートを含めた追求と、パーティー全員が協力し、ヤン道を開拓した。それ以来、白倉岳のトリコとなり、その年の5月と11月、又平成元年4月例会と都合4度訪れ、ヤブの縦線路尾根も鋭や嶺で切り開き、古道の復讐もした。今回は朽木山行会から第7回秋の登山大会「白倉岳縦線路登山」の案内を頂き、コースは南岳・中岳・白倉岳縦走、徒歩5時間・

約り。山道も道標も朽木山行会が整備し
した」とあり11月例会に記す。

11月例会は、第一の細川行きバスに乗
取、集合地の朽木村協生会前前で下車。す
でにマイカー参加組の人でいっぱい。朽木
山行会に参加手続きを済ませ、中野会長の挨拶
後、この集合所前から見える白倉三峰・陣子
裏の岩壁・溪谷の夕景、及びコース概念・天
氣予想など詳しい説明を聞き、出発となる。

国道を南下し、すぐ右の橋生橋を渡り日野
谷横へと右に曲ると、左山側に真新しい山
行会設置の白倉登山口の道標を見る。ここが
白倉谷口への支路道の取りつき口で標高25
00m。支路道のP5553.3まで、とっつきか
らの高差は300mは越しいと「近江朽木の
山」にも記されており、地図の等高線も細かい
が山道標識は完璧だ。やはり傾斜はきつい。
一汗かいた頃P5553.3の所に登りついた。
左側(右渓谷)が伐採され、真比良側の打見
山から武奈ヶ岳・駒鹿岳・荒谷ヶ峰を一路に
眺める好休養場所だ。

ここから支路道の傾斜も緩くなり、ルンル
ンの尾根道をゆく。荒谷山から白倉谷口へと
延びる主尾根がきびきびと見えるが、黄葉
がまみれた。両山手前の右瀬谷頭附近
も植林直後で好展望の小径の広さ、休憩に推
下山準備にかかる。

三角点頂上から45度斜面を約50分の急降
下、枝や根っこをつかみながら慎重にくだる。
急降下後は小川基岩への分岐を左に目送
り、高尾千岳への本日最後の登り。ここも以
前はヤブ薄木で道探しに苦労した尾根道。今
は手入れされた2万5千の地区の緩傾斜が道の
目をみた。私はこの尾根を「松本地産樹皮
と名づけた。P5553.3付近から目撃文のあ



白倉川付近地図

標の場所だ。山ガニアの独立高木の紅葉が今
までの登りの苦悶を忘れさせてくれる。

ひと休みして、9:42頃の南岳に登り着く。
一旦又下郷に下り、9:50頃の南岳に登り着く。
ここにも真新しい道標があり、中岳への進行
方向を示す。昔で押し倒された灌木も切り開
かれて、尾根道は既道もなくスイスイと歩け
て右難い。これなら12時過ぎには三角点に付
けそう。中岳頂上は9:46頃、南岳頂上は
9:51頃だが、伏見公園の道が左側に生え、
現在地の盛況になる。

突極標が足元まで持つかどうかあやしくな
つてきたので、白倉谷へ降り、以前中岳から
南へ尾根上をルート変更したが、流水や灌木
で道は無かった。今日は整備された道を離
なく三角点9:50頃の頂上まで飛び出た。早速
三角点付近の道標を確認し、13時出発予定で
お昼にしますと町座をつくる。

快晴ならば、2等三角点の山、展望は抜群
だ。北方は百里ヶ岳から三回岳・イチノ谷山
の山並み、車には比良連峰が谷ヶ峰から西
菜山まで眺みだせる山頂ののだが、今回は観
念ながら雲の中。今回初めての登頂された10人
の方に再度挑戦して下きたいを激励する。
風が出て、旅行きもあやしく、雨が落ちそ
う。集会地乗取まで帰って、テントを始末し

る自然生えの杉の巨木やアスナロの三木が現
れる。雨も本降りになり止めそうにないが、
傘もさせるよい道草、松本地産小屋までは休
みなしと歩を進めよう。

左の八幡谷と右の棚谷谷にはさまれた、高
尾千岳から東に延びる支尾根道。途中にウシ
コバと称する平地地帯がある。この道には破線
路が記されているように、昔は安曇川の村
井・大野基岩から野畑川の川小川・桑原への生
活の幹道だ。下りは雨風から雨にけむる谷
ヶ峰が想像のように見える。愛媛で同谷行
も楽しい。予定タイムより20分も早く松本
地産小屋に着いて、雨宿りと逃げこむ。

小屋内は畳敷あり、開窓もある。バス
時間までには1時間半もあり、ここで大休止
とする。濡れた衣服を乾燥しようと、五分け
して濡れ水を集め、火を起す。なんちゅう
てもこの季節、火の暖に勝るものは無い。大
火になった大須、後輩者も到着した。四半刻(45
分)におよぶ登頂の休憩で、我々が最後尾
になった。

頂上を見て出発。バス停まで30分の歩行、
15時46分村井標のバスに乗る頃には本格的
な降りとなった。どん笠山でも天気上々に限
る。上層も又楽しいはかせガマンのグチ、まあ
母までどうにか持ってくれたのがラッキーだ

この花・この草
P.カネ (Rubia cordifolia L.)
P.クニ (Andromeda)

山の色、枯色、黄色、マツルブリン、藍色
の表裏にはよく植物の形がうつわられて
います。見ればその植物の花や果実そのも
のの色を思いまわす。アカネの花は白色で
葉は果は淡黄色、根は黄褐色をしていま
す。冬期の田菜は、晩秋・早春にかけて太
くならず、根を採取・乾燥すると赤褐色に
なることから、このアカネは、
アカネの根は強うせいで、おぼたまたまの
根葉を口の周りに貼ると、(1)葉(二六)
など、歌の枕詞に用いられるほど日本人に
水にコブリーな植物だった。うすうす。

この根を煮出した汁が熱いうちに布を浸
け、灰汁で処理します。この作業を何度も
繰り返すうち、赤色の色染にプリンによ
り布は黄色に染まっています。灰汁の濃度
が薄いと黄に、濃いと赤味が深くなります。
また天日で乾燥させた根は薬用として、
利尿・止血・通経・瀉腸去積・打撲瘰癧に
利用されます。1日100〜150gに湯との
水を加えて煎じ、初産直までの流産したもの
を、1日3回食後に服用します。

つた。

今回の橋生からの縦走は私も初めてのコー
ス。これも朽木山行会々員の山道・道標整備
のお陰と汗の結晶に感謝する。この縦走コー
スは簡潔でユニークに描かれていない。真比
良近江朽木の山で最も値する山、と思う。
又この白倉谷には北山の大井流である今西
錦司先生が昭和45年7月26日、68歳の老年に
登頂されている。先生の730mの山頂にお
き、アイスキューで飲料されたであろう先生の姿が浮か
ぶ。本誌に素晴らしい山である。

平成4年11月1日歩く

△コースタイム▽

- 橋生橋(2時間) 鹿野(40分) 白倉谷(20分)
- 谷 尾根千岳(40分) 牛コバ(40分) 松本地
- 産小屋(30分) 村井標バス停
- 地形図) 2万5千1:5万・愛媛野
- 登山者

○登山ガイド誌として、ナカニシヤ出版か
ら「近江朽木の山(山本武人著)が刊行され
ている。このコースも詳しく記されている。

(三) 記 録 出 口 鹿 野 (六)

晩秋の栗原・忍坂の里

松永恵一



栗原の里

落葉
晩秋の風に、落ち葉が舞い散っています。
ほんやりと秋風に身をまかせ、夢ったりとし
た平日暮の世界に身を置き、心を休めます。
空は藍色。まっとう利毛で滑いたような雲が
覆れる。細い樹の葉や茎が、風に吹かれ
て赤らかく波のように揺れ、樹の黄色い葉が
薄く光りを透かしている。陽が降り、黄白色の
原が一瞬に黒ずんで、斜めの光線に大気の結
が深きあがると、うっとりと思憶れてしま
います。

シモン、お前は好きか、
落ち葉ふむ足音を？
夕べ、落ち葉のすがたはさびしい、
風に吹き散らされる。
落ち葉はやさしく叫ぶ、
シモン、お前は好きか、
落ち葉ふむ足音を？
(ルミ・ド・グールモン)
「雨ごとに紅葉し、いつのまにかすつかり
葉を落とした木々の樹元には、こんもりとし
た落ち葉の山が、自然のしとねとなつている。
道行く人の姿も、冬らしさを増して、持を立
てながら急ぎ足で通り過ぎていく。過ぎてき
た季節の思い出、年内には三と吐回したこと
のやり決しなど、人それぞれ胸には、落ち
葉が舞い散るように去来するものがある。

栗原への道
明け方の東の空だ、薄曇な空でたなすむ三
輪山。太陽の道を東へたどり宇陀の山地を越
えたと伊勢の神宮にいたる。
松井の市街から東南へ栗原川をさかのぼつ
た忍坂、栗原の相落を越る谷筋の道は、北
方の初瀬川の谷をさかのぼる。国道160号
線の傍崖前西幹線道と交えられている。忍坂
越えとともに、奈良盆地南部から宇陀地方を

へて栗原に至る重要な幹線道路であった。
宇陀山越へ通える幹道は、「女坂」(女坂)
を置き、忍坂に別置を置き、忍坂に修成を置け
り」と、「日本書紀」の神武天皇行伝系に於ける。
河内から生駒山を越えて大和へ入るうとし、
トミの山(忍坂)に於れ、兄の五瀬、弟を失った神
日本書紀系、神武天皇は、熊野に迂回し八
咫島に到られ吉野から宇陀に至った。
女坂は、松井市から大宇陀町に至る国道1
60号線の女坂峠付近。男坂は、松井市栗原
から大宇陀町半坂に至る、かなんろ坂(女、き
びしい峻道に等しい半坂峠越えの道という。
宇陀から忍坂の大道に至った急登道を、岩
穴に住む、尻尾の生えた三三の八十建と呼
ばれる荒くれどもが待ちかまえていた。
「天の神の小せがれが来るぞと、一泡ふか
せてくれよ」と

みつみつし、久米の子が
隠れ、石櫃の持ち、撃ちて止まむ
みつみつし、久米の持ちが
隠れ、石櫃の持ち、今度たば直らし
忍坂の大きな土壘に
大勢の人が入り込んだ。
よしや大勢の人がはいつていても
感勢のよい久米の人々が
前推の太刀石櫃の太刀でもって
やつつてしまふぞ
感勢のよい久米の人々が
忍坂の太刀石櫃の太刀でもって
さら今度つがよいぞ
と、お前になると、一葉に太刀を抜きはなつて、
一人残らず切り殺した。

きれいなお姿でしよ、
「初子に隣りては、足を組んではらし
ませんやろ。珍しいんですてな、
「足のところの着物は薄い絹かなんかですし
やるな、やわらかい感じがようでますな」
「厚も天蓋の袖や台座の葉弁のあたりに、朱
が透つてますや。学者の先生もいんなん考
えがあつて、はじめからのものかどうかまう
わからしませんが」
「日曜日はお昼から参りください。午前中
は買物に出かけますんで、鐘は近所に預け
てありますけど。大勢さんの場合は電話して
から来てくださいな」
「忍坂の持主であった保田典康郎は
「山ノ辺の道」に記す。
「白鳳期風の非難に於いて三尊石佛で、兼少
年と想うのも、兼少女と見るのも、眺める人
のその時の受け取り方である。ずっと以前か
ら、私はこれを細田王の金持佛と云ひ受けて、
その考えが幸しかった。何十年か以前、一人
の若い尼僧がこの佛寺に居たことは、
この佛と談り合つてゐるが、まことになつ
かしく、多少のそこはかない情味さへあつ
て、石佛そのものも、はるかに生々しいもの
があつたことである。」

コース概観

今回のコースは、神武天皇伝承に接する寺院山地向へ越える峠道の一つである「女坂」を歩く。晩秋の一日、この地域に残る後期から前期末期の古墳や古瓦葺院跡を訪ね、古代の交通路についても考えたい。

桜井駅の北口(近鉄線) バスターミナルから乗車した免田野町行きバスを笠間辻バス停で下車。この笠間辻は大和川水系と宇治川水系に分かれる所。バス停から少し戻ると右に登り口がある。杉木の立並木する小山のほとりの道を行き、右側の崖根をのぼると左側斜面に花山東塚古墳があり、さらに60ほど登るとのぼりつめたところには花山西塚古墳が存在し、国の史跡に指定されている。古墳は尾根筋や山頂部を避け、山腹の両斜面に築かれ、斜面上方を階段状に掘削して墳丘を築いている。細面や石段原石を濺ぎで築り、内面がうね／＼目積みされている。東塚は横穴式石室、西塚は特異な平面形態を持つ横穴式石室である。この地域にはこの種の横穴式石室がいくつか分布していて、古墳時代終末期のものであることが知られているが、詳しい年代や性格については明らかにされていない。しばらく国道1号を号線を歩くことにな



前に出る。この御陵には「頭の楯がなおる」という民間信仰がある。この信仰はいつの頃から始まったのかわからないが、古くからそう信じられている。
万葉の文といわれる舒明天皇の御製夕されば 小倉の山に 鳴く鹿は 今夜は鳴かず 寝ねにけらしも
〔万葉集〕巻八、一五〇一

要原山周辺の小道を下ると、「長坂伝承地

道」の石碑が建ち、左手に白鹿の家が山の傾斜地に並びつる要原の集落へと入っていく。火の見櫓の標を通ると、村の中の道は急な登り坂。村の上手、中央に居る大徳神社の社を白出して登る。要原寺跡は猫の頭ほどの地に三重塔の礎石が残り、十三重の石塔がわびしく形を落としていた。現在蔵山神社にこの要原寺跡を移築した。国史に、創建の事情が刻まれている。
仲四郎曰大徳が率領する僧侶のために寺を建てたことを強調し、比賣原に輪田が持統天皇八年(694)から造営を始め、和銅八年(715)までの二十二年間を費やし、金堂を建設、釈迦丈六尊像を安置し、三重塔を建て、若狭王子・仲臣大徳の祭祠を祈願した。柿本人麿の歌でも知られるように、草壁皇子は笠籠への狩猟に出かけた折、この地を通ったのであろうか。また比賣原に輪田が万葉の歌人、額田王ではないかという指摘もあり、彼等とした山間部地の礎石に遺説をかき立てられる。
国道から一段低い旧道の小道を下ると、下区口バス停で「童貞荘」の看板に出会う。左に折れ「天王橋」を渡り食糧池池への道をとる。赤坂天王山古墳は、こんもりとした森の中

々暮れになるといつも小倉の山で集くあの鹿は、どうしてか、今夜は鳴かない。妻にめぐり添えて、もう寝てしまったらしいなあ。生谷重隆(生谷重隆)の小向がある。ここは衣通郎女が生まれたという伝説の地。衣通郎女は『古事記』では大和天皇の第五皇女で別名を「大姫」(皇女)といひ、母は忍坂大中姫であった。容姿が美しく、身体が光が衣を通して差輝いていたので名づけたといひ、傍らに産物をつかつたといひ、戸の石組組が残る。忍坂(生谷重隆)神社が鎮座する。背後の宮山を神体とし、祭神は少彦名命を祀る。「三積坂」といふ当社相伝の婦人墓があるといひ。道は朝倉台の住宅地に入る。古墳公園に立ち寄ってみよう。住宅地の造成によって破壊された古墳のうち横穴式石室四基が後築されている。左端が推定行を埋積みした忍坂丸形墳の礎石式石室。隣は忍坂八号墳で平面六角形と想定される特異な横穴式石室。
外塚山(292.5m)の秀麗な山頂は、朝倉系土の墓をもつ。
こもりくの 初瀬の山
神武の 忍坂の山は
走り出の 宜しき山
出で立ちの くはしき山ぞ
あたらしき 山の

にある。一辺55mの巨大な方墳で、南に開口

する花崗岩の巨石を壁とす。巨大な石室は全長約17mあり、縦横比を大きく取りたい大きな家形石棺を安置する。石室が古墳にはほぼ同等する大きさで、江戸時代には常陸天皇の蔵柿(間)と考えられていた。石室内部の暗闇は、『古事記』の伊弉諾尊が黄泉國を訪問した記述を思い出させる。
忍坂峠は明日香村の萬壽池古墳の石室を見学した感想を「古墳」に記した。
「女室の奥ぶかくから湧つてくる一種の瓶め瓶めとした氣とともに、賦始人らしい死の眼帯がそのあたりからいまだに消えずにみるやうで、僕はだんだん異様な身ぶるひさへ感へ出してあました」
「忍坂道伝承地」の碑の建つところで国道に入る。忍坂の里の高古に總持寺法皇の高岡山石位寺がある。急な石段を登り、ると小さなお堂と段々階がある。欄干を願立ちや楳細な体の線が白象的な三尊石仏に白鹿の息吹を強く感じる。大和古寺らしく四季の花の咲き乱れる、よく手入れされた境内からは食糧池池の大きな土手が望まれた。
「舒明天皇御陵道」の碑を左折して、ゆるやかな農道を登っていくと、段の縁あるいは段々塚と呼ばれる舒明天皇の柁板内、陵の

荒れまく惜しむ
〔万葉集〕巻三、三三三
隔り国の初瀬の山、その背風のように背々とした忍坂の山は、走り出したとさうなかつたころのいい山、すくつと立ち上がったときのような姿のいい山、この心象される山が荒れてゆくのは、残念なたまたま。
▲コースタイム▼
近鉄上本町駅→大徳線沿道(40分)→近鉄桜井駅→免田野町行きバス(10分)→笠間辻バス停(10分)→花山西塚古墳・東塚古墳(50分)→要原寺跡(40分)→赤坂天王山古墳(20分)→石位寺(10分)→舒明天皇陵(40分)→朝倉古墳公園(10分)→須賀駅→近鉄上本町駅
▲費用▲
近鉄上本町駅→桜井駅 540円
桜井駅→笠間辻バス停 370円
朝倉駅→上本町駅 590円
▲地形図▲ 2万5千→桜井・初瀬・古市場
▲問い合わせ先▲
奈良交通情報センター
07458(2) 2201
高田山石位寺 〒633 桜井市忍坂上之町
07444(3) 0831
200円 9時~17時 日曜日午前中は留守にする場合が多いので午後から来てください。

八風谷・赤坂谷から

釈迦ヶ岳

中級コース (★★★)
岩野明

近江側から釈迦ヶ岳(1092.2m)に登る人はほとんどいない。地図には八風谷から、八風峠と中峠に到る登山路が記されているが、最近では特に八風峠への道は人が通らないため、一部で消え、ブッシュに変わっている。八風峠から釈迦ヶ岳までの後継も、最近の熊の登りが続き、かなりの時間を要する。紹介する赤坂谷ルートを選べば意外楽に登れる。特に赤坂谷の落ち着いた深い樹林の道は、四季を問わず鈴鹿の山の本来の良さを味わえる魅力的なコースである。中峠間にこのルートから釈迦ヶ岳へ何回も登っているが、大が然然入らない。自然そのもので、動物たちの足跡が貴面に残り、カモシカに出会うことさえある。又寒い時など、作業小屋で休

つくりくつみくこともできる。八風谷林道に入る。車止めまですぐ左杉木立の中に、シイタケ栽培の古木があるが、このあたりには赤色の大きな果実を楕円状に熟らしたツチアケビを見つづけることがあったが、今ではモヤシが採れなくなった。谷の右側を林道がセッコウ谷に向かつて延びている。八風谷も以前は葎園がのびるはずらしい谷だった。今では林道を作り谷にブルドーザーが入り、防犯ダムが次々と作られている。谷自体が変わってしまった。八風谷周辺はもう葎畑だが、大きなガレ場はない。谷を戻してまで神岡ダムを次々と作る必要があるのか疑問に思う。

林道終点から下ると、セッコウ谷に通じる林道に替く、この道を進み、峠を越えてセッコウ谷におりる。谷の右側で右に曲がる。左の中峠へ登る道は消えていて分かりにくい。土砂で埋まった作業小屋の横を通り、谷を渡って進むと右に分岐する道があるが、この道はセッコウ谷の北側をくぐる荒れた道で、神岡川まで通じている。明るい杉林の広い谷を更に進むと小さなガレ場がある。ガレを横切って進む草が茂る時刻は分かりにくい。正面を尾根の鞍部に向かって道が延びてい

鈴鹿縦走路にて(後方仙香山)



る。鞍部からは道もはっきりする。

赤坂谷に出合い、谷の左側右岸を登って多くと作業小屋が忽然と現れる。以前は鍵が掛かっていたが、誰かが窓ガラスをたたき割っている。横を通り更に進むと、やがて落ち着いた寒気の中の、谷に沿って古い道が続く。一部僅もあり道が消えかかるが、すぐ古い道が現れる。小屋から約40分、道が消えるが谷の左側を更に進むと、樹林の下に広がる



があり、回りの木にテープがかなり巻きつけてある。左の谷にテープ目印がある。谷をつめると後継の鞍部に着き、縦走路に出る。右側方に約半分登ると釈迦ヶ岳に着き、一休みして更に松尾尾根ノ頭まで行く。ここからの眺望はすばらしい。大バノラマが展開する。名古屋や四日市方面が見え、龍岳から御在所岳に続く縦線を確認し、兩名岳と鈴鹿連山が一望できる。

アルペン的な景観が展開する。中峠からセッコウ谷にくぐる道は一部消えている所もあるが、迷うことはない。谷に沿って古い道が残っている。やがて樹林された谷が変わり、更にくぐると前方に八風谷林道から来た、朝の道が見えてくる。谷を渡り草原を進むと縦路の道に出会う。

△コースタイム▽

八風橋(北谷)八風谷林道終点(40分) セッコウ谷(25分) 赤坂谷(1時間10分) 縦走路(30分) 釈迦ヶ岳(10分) 松尾尾根ノ頭(1時間20分) 中峠(1時間) 八風谷林道終点(30分) 八風橋

〔地形図〕2万5千 電ヶ岳・御在所山
昭文社「45御在所岳・鎌ヶ岳」
〔交通〕マイカーの使用が便利

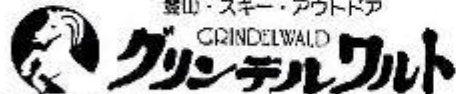


地域に合った品揃えを目指しています。

三重県唯一のプロショップ

登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。

登山・スキー・アウトドア



営業時間 AM10:30~PM8:00 毎週月曜日定休

三重県四日市市藤崎町13-3 TEL 0593-54-0627

鳥見山公園から

鳥見山と貝が平山

初級コース(★)
演 田 啓 司

奈良県御所村と桜井市・榛原町の境にある貝が平山と桜井・榛原の境に位置する鳥見山とは共に額井火山群の山で、近鉄の榛原駅付近から北に見える小火山群の山の一つである。

標高が低いので夏の山歩きには不向きだが陽の短い晩秋から冬の軽いハイキングとしては適している。

近鉄大阪線の榛原駅下車、東へ出て近鉄のガードをくぐる。爪先登りの道を行くとやがて「あかね台住宅地」に入る。町外れに立つ「鳥見山公園」の案内板に従って、住宅地を抜けて舗装道路を登って行く。あかね台の配水池を過ぎると榛原の町が下に見えて来る。杉や檜の植林の中を行くと、静かな林に鳥の

声も聞こえてくるだろう。林道西畔鳥見塚を横切る頃から道は急勾配になった。杉や檜の植林を抜け汗が出てくる頃、中復の鳥見山自然公園についた。榛原の町がよく見える。自動車はここまでだ。

駐車場や遊歩道、池の奥には神社もある。鳥見山公園は、神武天皇が天神地祇を祀った旧跡と伝えられる。ここから734・6の鳥見山を通って貝が平山への縦走路がある。よく手入れされた公園にツツジやサクラが沢山植えられている。花の頃は素晴らしいだろう。池の横から神社の上に出ると公園は遙か足元になった。

展望台は素晴らしい眺めだ。金剛・葛城や音羽山・龍門岳などが並び、遠く大峰の稲村ヶ岳や山上ヶ岳も見える。しばらく展望を楽しんでさらに登りにかかる。

杉の植林の中の登りが続き、ぐんぐん高度を上げ稜線に出て休憩をとった。ここから少し下り気味に森林の中に入って杉林の中を行く。こは枝打ちされた杉の木が整然と並び、幹がとても美しい。林の中で何枚も写真を撮った。

鳥見山の頂上は杉林の中にあつた。道の真ん中に小さな標柱が土に埋まっている。よほど注意していなければここが頂上とは判らな

い。頂上を過ぎてすぐ杉林の中を右に曲がり、もう一度右に曲がって、ちょうど頂上を回り込むようにして下り、貝が平山に向かう。

この付近は間違わないように注意が必要だ。



杉林を抜け尾根筋に出ると、夜が明けたように明るくなった。鳥見山と貝が平山との鞍部から、杉の植林は雑木林に変わり熊笹も現れて山の様子は一変する。

行く手の雑木林の間から貝が平山が見えている。近づくと見えなくなるので立ち止まってゆつと山を眺めた。雑木林が続き山道に岩が出てきた。小さな登りを繰り返しながら笹のブッシュを登って行く。砂まじりの土が露出した急坂を登り切ると急に北西の天理方面の視界が開けた。また杉の植林帯に入る。隣の額井岳の姿が

インターで出て369号線で香酢峠を越えて、玉立橋から広城農道に入る。宇陀警察署の前を通り、あかね台の配水池付近に上がると、空き地に少しは駐車出来そうだ。

△コースタイム▽

- 近鉄榛原駅 (15分) あかね台住宅地 (40分)
- 鳥見山公園 (10分) 展望台 (15分) 鳥見山頂上 (45分) 貝が平山 (20分) 玉立への分岐 (20分) 舗装林道 (25分) 玉立集落 (5分) 玉立橋 (25分) 宇陀警察署 (5分) あかね台住宅地 (15分) 近鉄榛原駅
- △地形図▽ 2万5千1初編



木々の間から見えているが全容は望めない。樹木の切れた所から振り返ると、過ぎてきた鳥見山の姿が見えた。やがて笹の中に吐山の野外活動センターへ下る道が分岐している。岩まじりの山道を登り、雑木林の中、傾斜が緩やかになったら貝が平山の頂上に出た。狭い頂上は雑木に囲まれて展望は利かないが、場所を選べば木々の間から少しは額井岳火山群の戒場山(737・6)などの特徴ある山容が眺められるだろう。

頂上には822の2等三角点の標石があり、側に南無妙法蓮華経の石柱があつた。貝が平山は第三紀砂岩層から貝の化石が出る。土し、山名もこれに由来する。後から登って来た人に聞いたが「香酢峠への道はない」とのこと。香酢峠へ下るのをあきらめて、もと来た道を鳥見山の鞍部まで引き返すことにした。(香酢峠へは「いばら」で通行不能)

尾根筋で山肌の露出した所に化石があると思いたが、寒かったのでそのまま通過した。吐山への分岐を過ぎて更に5分程下った小さな鞍部から尾根筋を離れ左に玉立へ下る。この鞍部には標識はないが、ほぼ最低鞍部で疎らな杉林の中、山道が谷間に下っている。この道は最近付けられたようだ。下ると地道の林道に出る。やがて下の谷間に不動明王の社が見え、すぐ舗装道路に出た。山間の田圃の畦道を通り香酢川の上流に沿って下ると玉立の集落が見えて来た。青竜寺に御参りをして静かな山村を通過する。目の前の高い位置に玉立橋が見える。橋の左側に設置された階段を上がる。振り返ると貝が平山や額井岳の姿が見えた。帰路はここ玉立橋からバスに乗っても榛原駅まで歩いて良い。のんびりゆつくり4時間の山歩きだ。マイカー利用なら、名阪道路を針

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ <075> 211-5768
FAX <075> 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

広大なすすき草原

生石ヶ峰

初級コース(★)
見 嶋 弘 幸

生石ヶ峰は紀ノ川支流賀志川と右田川の分水嶺、鼻嶺山脈の主峰で、生石山とも呼ばれている。1等三角点のある8700ピクニックの東オンジと無縁塔の建つ西オンジの二峰を中心に、隆起準平原状の地形をなし、生石高原の名で知られている。また、なだらかな山容が虎のうすくまっただ姿に似ているため、古くから北の鼻門山は龍に、相対する生石ヶ峰は虎になどえられてきた。

生石高原では牛馬の飼料、水田の肥料、屋根材の茅藁として、山頂を中心に広大なススキ草原が形成され、晩秋にはまばゆいばかりの碧世界となる。日本のように雨の多いところの草地では、毎年夏刈りや山焼きを行わない限り、やがて低木が侵入して低木群落とな

り、そのうち陽光を好むアカマツ、コナラなどが入って高木林に変わっていくとみられる。そのため生石高原では古くから山焼きが行われてきた。

1等三角点の東オンジからの展望は360度開け、足元に広がる広大なスロープを中心に、四方眼下に和歌山、湯浅の両方をかきめ、さらに紀伊半島を眺めて、談路風、四国の峰々を遠望し、背後には高野山、熊野、唐山の峰々を望むことができる。また東オンジ、西オンジ二峰の中央部には、生石と呼ばれる狭小な生石の石葉片岩の岩がある。弘法大師が高野山を廻る前に聖徳太子を祀ったところと伝えられ、岩上には大師を祀る小祠があり、昔は風が強いので、風よけの守り神とされた。

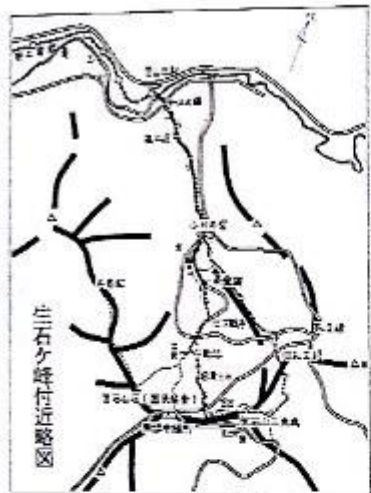
また生石の南には、大火を焚いて雨乞いをしたとされる火上げ岩、生石神社の祭神である荒御子の巨岩寺々、山頂一帯には霊岩があちこちに見られ、山名もこれに由来している。

小川の宮・生石山一本松

野上郡談路山口駅から福井峠を越え、前方に生石高原のゆたかりした山容を望み、熊本川の流れるに沿うのかなアブローチとな

る。この宮は、5分ほどで再び車道と合流するが、なお道をまっすぐとってジジザグの急坂を下る。今は見かけなくなったシロ林が多くあり、朝々の間に生石高原の北面を駆け登る道を下って、一本松に至る。ここまで下ればどの道をとっても小川の宮に通じる。付近には、樹の木が多く植えられ、3〜4月頃には、色とりどりの花が咲き誇る。

小川の宮からは、もと来た道を引き返せばよいが、バスを利用することもできる。福井峠手前で、一日歩き回った生石山に別れを告げ、登山口に向けて歩く。道路もあと少しとなる。



三角ヶ峰付近地図

すすき草原の生石ヶ峰 (三角点を望む)



る。小川の宮から500mほど、二股を左にとり、高崖を渡ってすぐ右へ登山道に入る。鞍部急坂の急坂を登ると大観音前の朝雲道に出会う。大観音は高野山末寺として平安末期に創建された観音寺と大師寺が明治の終わりに合併、大観音と改名された寺である。右に鐘巻道を通る。早々の頃には、梅の香りが漂う快道な道筋で、10分ほどで鐘巻道が終わり、カシの大木に囲まれた下三段不動辻に出る。不動辻をまっすぐとって、5分ほど歩くと、

下ると、5分ほどで再び車道と合流するが、なお道をまっすぐとってジジザグの急坂を下る。今は見かけなくなったシロ林が多くあり、朝々の間に生石高原の北面を駆け登る道を下って、一本松に至る。ここまで下ればどの道をとっても小川の宮に通じる。付近には、樹の木が多く植えられ、3〜4月頃には、色とりどりの花が咲き誇る。

天皇誕生日に登る

てんのつさん たんじょうさん

天王山と誕生山

初級コース(★)

山崎 修

岐阜県美濃市に天王山と誕生山が隣り合っている。面白あわせに天皇誕生日に二つの山を登ってみよう。

東海北陸自動車道を美濃インターで降り、国道沿いに西に向かい、ほど行くと「大矢田神社」の案内板が出ており左折して北に向かう。アメリカカハナミズキの街路樹を通りすぎると、大矢田神社御祭所・通拝所があり前方に天王山が見える。

大矢田神社まで車で入る。(11月の紅葉のシーズンには駐車場が必要で混雑する) 神社は寛文二年(1768年)僧堂による創建と伝えられ、祭神は夜山伝説にかかわる須佐之男命・天若日子命である。祭神の由来は深山に大蛇が住み里に出て来ずには村人を悩ま



天王山(左端の山)と誕生山(右端の山)



下りは登った道を下る。尾根沿いに誕生山まで行っても良いが、山慣れない人は一旦下った方がよい。

大矢田地区のは様中央大矢田小学校の裏には夜山と称する小さな丘があり、その麓には夜山天神社がある。その傍らの石壁には「美濃国美濃川之上夜山神社」と、古事記伝説の「夜山は美濃川(今の長良川)の川上にある大矢田の深山であると書かれている。古くからあった社落である事に間違いないようである。

の傍りに夜山神社に寄って往時をしのぶのも良い。ただ、神社は現在荒れている。

誕生山へ向かう大矢田神社から朝に通った県道に出て美濃インター方面へ戻り、長良川にかかる山崎橋手前の橋を左折し

していたので、村人が地区の中央にある夜山の天若日子命の御所(夜山天神社)に加護を祈ったところ、須佐之男命を祀るようにとのお告げがあり、それに従い天王の宮を建立して神を勧請しようとしたが、須佐之男命が出現して大蛇を退治して「我をここに祀るべし」と言ったので、天若日子命と共に祭神にしたと云う。

この祭神の由来にかかわる祭礼として「ヒンココ」祭りが行なわれている。古事記文化財に指定、12人の妻の種まきをしているヒンココ(宮と祠が、竹タゴを芯にして利紙を張って作られた農人形)に課いかかっている大蛇を須佐之男命が退治して、御名田地と記される願書まで、笛・太鼓に囃子(ヒンココ・チャイコロ・チャイチャイ・ホイ)を合わせて、ヒンココが踊る形で行なわれる。

登山道は神社社殿の東側にあり、天然記念物に指定されている「根谷ヤマモミシ樹林」の中を谷沿いに北上する。多くの紅葉の名所がイロハカエデを主にしての対して根谷のはヤマモミシという種である。ヤマモミシは山にあるモミシではなく、大蛇で葉の裂片が広い種類のモミシで、群生をつくるのは珍らしいと言われている。谷沿いにはひとかかえもあるヤマモミシが数本見られる。

『新撰天竺志』に「山のうち、かえでの大樹多く、殊に大門の左右に並びたるが、雲の後紅葉日本なれば、遠近より人來りて見る」とある。

谷が消える頃には道は左のきんぎょを巻いて後縁に出る。後縁はマンサクが多く、昔には花と香りのトンネルとなる。この後縁を東に向かえば誕生山へ行けるが道はほとんどなく藪漕ぎを強いられる。

後縁を西へ向かうと3.4分で天王山、2等三角点(537.8m)の山頂。松の木が一本立っている他は草地になっており、目撃らしは長く、北には新雪を頂いた奥美濃の山々が望め、その奥にはその名の通り白い白山も天候次第では見え、西にはかすかに伊吹山も見える。

見晴らしの良い山頂には、戦国の世には山城があったと言われ、前記の『新撰天竺志』によれば「古城跡は天王山の頂上であり、後藤太郎兵衛が住みよした」とある。この城も嘉慶道三の美濃征服時に炎上落着いたようである。

山頂下には地元の小生が登った時に作ったのか、両宿りの小屋がけがあり、その中には登山道の案内図が残されており、神前・御手洗・半道の各集落からも登れるようである。見晴らしの良い山頂には、戦国の世には山城があったと言われ、前記の『新撰天竺志』によれば「古城跡は天王山の頂上であり、後藤太郎兵衛が住みよした」とある。この城も嘉慶道三の美濃征服時に炎上落着いたようである。

誕生山と云う名前の由来については、いくつかの説があるが、大矢田神社の祭神である天若日子命と夜山天神社の祭神である下照比売命との間に生まれた御手洗比売命の誕生の地であるとか、傳人がこの地を誕生したと言った説が多いようであるが、一説には天若日子命の召使の天探女を祀った神社があり、探女が転じて誕生神社と言われるようになり、そこから山名が出来たとも言われている。山頂には「誕生神社御祭所」の石碑が残っている。

現在では誕生神社は参拝に不便なために山頂から降ろされ、美濃市地区の八幡神社に合祀されている。

山へは国道が分岐している付近から西へ向かい、田の畦道に入るとすぐ古道跡を辿り未舗装の車道に出る。このあたりは松原山にて日中向までのシーズン中は無断立入禁止との看板がある。確かに誕生山はアカマツが多く、以前と同登った時には何れも取り残されたマツタケが取れ、春にはフタバ等の山菜

せせらぎ


たのしかった山行の思い出や記録。四季の自然情報など。常時投稿下さい。
1行15字詰20行以内に。

題字・小林破瑠三

6月9日、皇太子殿下と雅子妃の御成婚を祝して、北摂の小和山へ仲間連名で登る。本誌でお馴染みの内田嘉弘さんが「山溪」誌にも紹介されたせいかな。アプロ1チのバスは京阪神の登山者で満員。本誌に「京都北山やぶ漕ぎ流快山行記」を寄稿しておられる。京都北山グループの出口憲次さんとも出会った。「R飯田線の小和田駅も賑わったぞうだが」「日本山名辞典」では小和田山という名前前の山は北摂にしかなかった。山頂で内田嘉弘さんともどもに乾

杯。山頂は京阪神からの登山者約2000人で賑やか。この山始まって以来の人数であつたらう。朝までの雨も上がって快晴。御成婚を祝うにはふさわしい一日でした。
(慶徳次 盛二)

7月、北海道の山登りに出かけ。観光地では、車道にキタキツネが何匹も出てきて、観光客に餌をねだる。大衆化して産るのはいないのだが、中には車道に座り込んでいて事故にあつたものもある。登別温泉からクッチャロ湖への



どこへ行こうか
新ハイ関西サービス
チェーンへ

福島・二岐温泉
日銀連 大和館

東武鉄道「ク」ポン券も
乗換 不動の湯

〒3368
埼玉県秩父市山田24312
049412311126

観光道で、先行するマイカーが急に停まる。窓から何か食べ物を探している。数匹のキツネが争って食べていた。その朝にはねられたキツネの死骸が落ちていた。生き物の生存競争の厳しさと哀れさ。目の当たりにして胸が熱くなった。

二股ラジウム温泉の前でも、何匹ものキツネが集まって来る。その中に脚を引きずっているのがいた。これなども車の被害らしいが、キツネが悪い人間が悪いのか、皆さんどうお考えになりますか。

富士登山・富士五湖
東海自然歩道
(白頭山・ハリモミ純林)
三原山の麓
ペンション コットンテール
〒401105
山梨県南都留郡山中湖村平野
055556518535

四季降り出す東嶺高原のハイック
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき道りと味の宿・日根道
温泉旅館 けやき山荘
〒390115
長野県南安曇郡安曇村東嶺高原
02639312555

すか。

山形感

7月29日、丹波の秀峰「千ヶ峰」に登った。台風4号の接近で天候が心配だったが、幸い雨にもあわず30度程度のすばらしい恩恵を満喫する事ができた。多少ガスってはいいたものの遠く六甲山が、そして笠形山・備前山まで眼下に見渡せ、押し寄せる山並みは迫力もろの。しばし肌寒さも忘れ堪能した。千ヶ峰は車で登山口まで御釜道隣で入る事が出来。登山口には数台の無料駐車場と真新しい木造のトイレの設備があり、女性でも安心である。

登山口からはすぐ美しい三谷溪谷となり、ナメ池や雉淵を見ながら2kmの登りであるが、その急勾配は驚かされるばかり。しかし一歩毎に履物がいりらける軽装は、足がつかれるのを忘れさせてくれる。尚、2等三角点の頂上には鉄箱の中に登山者名簿があり、過去の登山者のサインが実に楽しい。勿論小生もサインしておいた。
これから行かれる方に一言、国道1号より音羽村バス停を北へ2

00分歩き「三谷古橋」の標識を左折、すぐ突き当たりを右折で、あとは登山口標識まで一本道。登山道は地元青年団により良く整備されており、5000歩の標識もうれしい。

中家私伝

8月山行報告
1日 前夜、天川村河川キャンプ場を宿泊。伏見公民館「アウトドア教室」講師として、川大天井(2万5千回川)へ登る。472歳まで37名、全日登頂。
20日 川大天井(同)「大豆生」登山道にて引き返す。
22日 「豆のつどい」例会。川大天井(同)「大豆生」へ。参加15名。

25日 川大天井(同)「大豆生」へ。
27日 川大天井(同)へ再び登る。天気にもめくれ、点。
30日 「大和漫歩会」例会。大和上市駅よりタクシーにて川上村高原経由、五番関トンネルの北口へ五番関、川大天井往復、天川村河川へ下る。参加16名。
(上田 伸弘)

8月29日、新ハイ関西の京都市北山歩きに参加しました。鶏群を登って医王沢に下るまでは、全く問題は無かったのですが、祖父谷村道が医王沢に延長工事されてその先が産生の方へ延びてきました。そのため、以前の医王沢の道は崩壊し、作業小屋を過ぎたところで沢コースは歩けなくなっていました。仕方なくそこから林道を歩き、15分程で右手に入る石仏峠への分岐を買つけました。この分岐点を右折するとそのまま相谷谷を下ってしまいます。(イサナミ峠への分岐点がそれより手前にあります。イサナミ峠への踏み跡は薄くて沢の左岸に付いています。石仏峠への道は沢の右岸へ上流に向かうと左側)に付いています。

この林道を逆進して右岸から下って推測に行く場合は、林道の右手に作業小屋が見えたら、その付近で沢に降りて沢コースに入らないと、狼狽の分岐点を間違えず可能になります。
この林道が産生方面に延びてきているのか、歩かれた方は状況を投稿していただけませんか。
(石川 幸博)

汗をたっぷり流せる温泉と
正々堂牛のシキアブシヤブ
日本酒の鯉魚と山の幸
ハイカーの聖地
ナガサキロッジ
〒949121 新潟県中頸城郡
妙高高原町の平湯温泉
0255186122661

高山の花、温泉の花
高山山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
〒949121
黒沢池 ヒュッテ
〒949121
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の辺温泉 ナガサキロッジ
0255186122661

休憩室入浴も歓迎
10名以上マイクバスで送迎
箱根仙石原温泉
福 島 館
〒250066 神奈川県足柄下郡
箱根町仙石原1339
046001419041

ハイキング・キャンプに
好評な公園
朝明温泉 あさけ茶屋
〒510112
三重県三重郡志摩町下草
059319311789

山行計画

新ハイキングクラブ要覧

このページの山行計画には、「会員に限ると特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するようにならなくてはなりません。」「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費を頂くことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例年の参加費を元に標準費がかけられています。出発点降の際係に保険料(日額50円)、夜行日帰りの場合は2日に1000円を支出して頂きます。(AUI保険会社と契約)

標準保険料の内容は次の通りです。
死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院治療金 5000円
通院治療金 2500円
日額 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで、事故があった場合は解散時までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないのは次の通りです。
①ピッケル・爪爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行、②スキー使用の山行、③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行、④積込場内での事故、(詳細は係まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書	
山行	
期日	
住所 〒	
電話番号	
氏名	
会員番号	(会員でない方は会員外記入)
生年月日	
緊急時の連絡先	

返信用ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

比良・堂崎岳(中級向き)
期日 11月7日(日)日帰り
集合 J&R近江駅7時5分発湯西線水原行き先頭車向に乗車(途中駅から乗車可)比良駅→イン谷口→ノクノホリ→堂崎岳→金栗峠→北比良峠→カラテ→釈迦谷リフトのりば→山麓駅→比良駅(解散)

費用 約2500円
地図 昭文社「46比良山系」
係 村田智俊 ○山崎義治
申込み 〒610-0101 城陽市寺田大群10の10 村田まで

因田園境
日名倉山と三室山(一般向き)
期日 11月13日(土)14日(日)
J泊2日
集合 J&R近江駅前9時30分
コース (一日目) 姫路駅→室一
日名倉山→室一三室高原
野外活動センター→ロウジ
(二日目) ロウジ→三室

費用 約3000円
地図 昭文社「58赤目・俱留 務原原」
係 村田智俊
申込み 〒610-0101 城陽市寺田大群10の10 村田まで

日本最高位の温泉 (2400m)
立山・室堂
みくりが池温泉
〒930 富山市五福末広町
電 0764-10434

ハイキングには、スキーには、志賀高原 石の湯ロウジバス 既の湯線平床下車
電 0269-13424
東京本社・東京都新宿区新橋3-12-15(新光ビル2F)
(株)スポーツサービス
電 03-3341-0211

黒煙山・妙高火打山・飯綱山登山・苗名湯ハイキング
大自然が奏でる四季の詩
日帰り シヤレー黒煙

〒389-13
長野県上水内郡信濃町黒煙高原
電 0262-155-3171
館内より日本カモンカ毎日20時以上と、北アの音形観察、北ア全体の大観望の湯、春は山菜等
展覧会、露天風呂
あるふすいん 高山荘
〒382 長野県上水内郡
高山村山田牧場・奥山温泉
電 0262-142-2527

山一ロウジ姫路駅(解)
費用 約8000円(宿泊・交通費・食料代) 姫路駅まで各自負担

地図 2万5千1千草・西河内
昭文社「59水ノ山」
係 須藤岡 頼○村田智俊
申込み 〒610-0101 城陽市寺田大群10の10村田まで

宮本武蔵ゆかりの日名倉山と紅葉の三室山へ。マイカー参加の人は直接10時30分、室バス停へ。夕方より参加の人は三室高原へ18時頃までに集合下さい。野外活動センターでは交流野外スキヤキパーティをします。雨天決行

鈴鹿・羽黒山(一般向き)
期日 11月21日(日)日帰り
集合 J&R関西線関前9時
コース 関前→鷺山→正法寺山荘跡→羽黒山→鷺山→地蔵院→関前

奇岩が点在し、低山ながら展望抜群の登りがいのある山である。小雨決行
文学座中級歩12
晩秋の薬原と釜坂の里(一般向き)
期日 11月28日(日)日帰り
集合 近鉄桜井駅北出口9時
コース 桜井駅→雲田野行きバス→笠間バス停→花山西原古墳→東塚古墳→栗原寺跡→赤坂天王山古墳→石位寺→舒明天皇陵→朝倉古墳公園→近鉄朝倉駅

権原駅→玉立→額井峠→戒場山→戒長寺→山部赤人墓→天満宮東→藤原原
費用 約3000円
地図 昭文社「58赤目・俱留 務原原」
係 村田智俊
申込み 〒610-0101 城陽市寺田大群10の10 村田まで

あなたのふる里になりたい
スキー場まで歩いて1分
白馬ファミリーペンション
和 田 森
〒399-193 長野県北安曇郡白馬村八方和田野
電 0265-1172-15351
八ヶ岳南北縦走の中心地
50年秋新館完成完成館空
木の香に癒される養生水療高
オールレイン 小屋
1泊2食付 3,6000円
4月来11月末開設
〒399-102 長野県上水内郡
茅野市豊平2720 小平勇夫
電 0266-721-279

初冬のササ原・ダラノ坂を下り
ます。下り一方のコースです。小
尾山行

山行報告
新ハイキングクラブ開



伊吹山夜間登山
7月24日(土)25日(日)
台風の影響のため中止しまし
た。来年の夏に又計画します。(西
出敷・中西信行)

文楽歴史散歩10
大和郡葛山から大峰山

7月25日(日)
台風の影響のため中止しまし
た。又次の機会に企画したいと思
います。(松本恵一)

北アルプス(後立山)

船ヶ岳から針ノ本岳・蓮華岳
8月13日(金)夜17日(祝)朝
(13日)梅田21・20 京都駅22・
45 厚沢へ(並中途)
(14日)雨の中晴れ 厚沢6・00
7・00 16尾崎新道 1 穂北山荘

11・30 長谷川13・20 釜ヶ崎尾崎
14・00 10 穂北山荘14・40 (15)
(15日)晴れのち小雨 穂北山荘
6・45 1 新越山荘9・00 20 厚
沢尾崎10・30 赤沢谷11・15 長谷川12
20 15 厚沢尾崎14・20 針ノ本岳15
20 30 針ノ本小屋16・20 (16)
(16日)曇 針ノ本小屋16・00 1
蓮華岳17・50 針ノ本小屋18・40
9・00 針ノ本小屋19・35 45
大沢小川15 厚沢12・15 (登
食13・50 大町温泉 湯船の
湯14・10 17 19 大町駅17・
30 夕巻19・50 第一大坂へ

(17日)京福駅5・00 梅田6・00
14日、雨の中だったが、小屋に
到着後雨も上がり、船ヶ岳の展望
を楽しんだ。15日は晴天に恵まれ
剣ヶ立山連峰を南側に見ながら、花
の咲く稜線を縦断した。16日は薄
曇りのコマクサ、雲漢歩きと思っ
た。北アルプスを満喫した。
(参加者) 深谷正史 山盛加奈子
長比谷美 新井裕代 中井ひろみ
竹内正三 飯田 昇 大宮健枝子
渡辺達郎 中村彰男 宇高水太郎
松林立英 三木良子 西村義加
前田幸子 宮原敏彦 広瀬まよ子
稲本芳雄 長谷川敏子 木本文喜

北アルプス(後立山)
9月12日(日) 晴れ
京都駅7・57 近江高野駅8・50
9・00 喜羽登山口大炊神社
9・15 1 35 歩観音10・20 1 35
岳山11・00 1 オム岩11・30 1 高
峰12・00 (登食) 13・00 1 岩阿
沙利山13・30 1 40 寒風峠15・00
1 涼峠15・20 1 北小松駅16・15
1 6・56 1 京都駅17・50
天気はよかつたが、風がなく蒸
し暑い日で、アップダウンのコー
スは長く感じた。リトルでもかな
りハードなコースだった。
(参加者) 深谷正史 藤原保治
西原智雄 田中順子 渡部史郎
宮坂敏彦 森本成一 新井裕代
長比谷美 岩崎利夫 木本文喜
伊藤和夫 山崎雅治 山崎多恵子
高田敏生 松林立英 三木良子
宮原敏彦 山本 都 宇高水太郎
高橋 寛 中家弘治 中村義雄
竹内正三 宮原敏彦 田中順子
中島寛典 鈴木善雄 太田加子
深谷正史 則定保夫 山盛加奈子
太田敏彦 北川良子 小島フジ子

8月22日(日) 晴れ
山本バス停9・00 小枝割渡谷大
石橋9・30 御堂尾道終点9・55
仙鶴尾道分岐10・15 仙鶴尾道
垂越11・10 仙鶴尾道11・50 登食
12・50 仙ヶ崎13・00 小松峠13・
30 仙鶴尾道分岐14・25 御堂尾
道終点14・45 大石橋15・10 解
散

これはもう大変な蒸し暑さで、
これはきつとマムシが出るぞと
言っていたら、本当に出た。それも
5〜6匹。逃げる人、驚愕する人、
捕える人、食べたそうの人。他ん
な人で、誠に楽しい山行でした。
(参加者) 深谷元弘 大矢知正彦
恒任正昭 社原真吾 石田真由美
平井健子 山崎浩一 森 美香子
高山賢樹 藤田和洋 任 大林
任 大海 高山尚樹
大矢知正昭子 ○新町幸夫
○船越美夫 計16名
8月29日(日) 晴れ
石仏峠から機敷ヶ岳

渡辺達郎 林 弘毅 飯田 昇
内田善幸 小林石尾 ○中西信行
○村田智俊 計42名
新ハイキングクラブ開
入会のすずめ
このページの山行報告を通じて
正しい山歩きを、たのしい山仲間
たちと味わいませんか。リーダー
(登) はすべて無償の奉仕で、各
自分で切符を買い茶代を払い、宿泊
料もすべてワリカンです。
新ハイキングクラブ関西の活動
はまだ始まったばかりです。
あなたも新ハイキングクラブ開
西に入会して、たのしい仲間にな
りませんか。会費には見学「新ハ
イキング」亦冊関西の山(年間6
冊)をお届けします。会員はこの
ページの山行報告に参加できます。
入会金 500円(パッチ代)
年会費 2500円(送料共)
です。
新ハイキングクラブ関西への入
会申し込みはこの雑誌に挿入の振
込用紙をご利用下さい。振込号か
ら送金せよと明記下さい。
○新入会費紹介(1463まで)
辻本修士 岩田節子 三浦利夫

会員募集
小さな旅の会

大塚近郊の山を月2回(日曜
日)8〜14日のハイキングをし
ます。遊覧車として、年間会費
は三千円、機関車を三か月に
運行し、例会は、交通費等費相
当額を徴収しています。なお、
この会はリーダーの無償の奉仕
で運営されています。今回第十
年を経過し、山歩きの仲間を広
く募ります。
入会希望者は22日(日)手回りの
上左記へ機関紙を請求してくだ
さい。
《事務局》
〒562
箕面市桜4の8の8棟6号
寺山英男まで

安野幸孝 尾野吉孝 恒任正昭
市原敏雄 別所 良 今村克己
宮井健子 村田智俊 米村賢司
岡 冬樹 竹内 賢 谷口啓久
杉原元弘 辻原真吾 岩崎邦夫
藤井勝志 東平朝和 武市眞芳美
飯田善明 山本 謙 加藤三男
大村和和 井田一久 佐々木豊
井村達哉 井村孝子 石谷 要
今井定一 村上俊子 山本 都
藤原敏子 小橋敏郎 橋本喜友夫
森崎保樹 山本智枝 秋山 純
森本善和 若田道一 高井万寿子
内田六夫 原 勇三 橋本久雄
藤原隆史 坂本 茂 坂本ヤスコ
井上 塚 中村敏文 千穂子枝子
石川勇雄 渡辺 勳 金田義一郎
林 木明 柴山敏夫 斎藤賢治
原 謙昭 柏谷敏子 古市忠洋子
神水洋治 松田智博 岡崎なつみ
中山尚子 藤合正宏 猪俣敏子

北大路バスターミナル8・30 集合
8・40(タクシー) 1 相父谷林道車
止9・20 45 1 狼峠9・55 1 石仏
峠10・40 30 1 相父谷峠11・20
30 1 ナベクロ峠鉄塔下11・45
(登食) 12・30 1 機敷ヶ岳13・00
1 05 1 葛野峠14・20 30 1 岩屋志
明院14・50 1 04 1 機敷15・15 50 1 北
大路駅16・40 解散

カラツとした晴天に恵まれ、汗
もかかないさわやかな北山を歩い
た。医王谷に林道ができ、石仏峠
への登山道が途中で消えていた。
林道を歩いてテープを見つけて石
仏峠への道に入った。計画とは逆
のコースにした。
(参加者) 西田一夫 山本君子
三宅 明 澤田敏生 山盛多恵子
谷口晴久 前田政雄 四ノ宮陽子
稲本芳雄 宮原敏彦 長谷川 謙
山本 都 松下 武 久保田英次
西村泰治 稲田厚子 水本加津栄
大畑幸雄 鈴木春雄 田中白子
岩城 剛 梶比治夫 岡田正治
森田元博 吉井節子 橋本清治
北川良子 宮内善彦 中家弘治
中西 昭 高橋 寛 橋井恭子
中島寛典 多田正信 多田春子
前田幸子 則定保夫 深坂 寛

渡辺達郎 林 弘毅 飯田 昇
内田善幸 小林石尾 ○中西信行
○村田智俊 計42名
新ハイキングクラブ開
入会のすずめ
このページの山行報告を通じて
正しい山歩きを、たのしい山仲間
たちと味わいませんか。リーダー
(登) はすべて無償の奉仕で、各
自分で切符を買い茶代を払い、宿泊
料もすべてワリカンです。
新ハイキングクラブ関西の活動
はまだ始まったばかりです。
あなたも新ハイキングクラブ開
西に入会して、たのしい仲間にな
りませんか。会費には見学「新ハ
イキング」亦冊関西の山(年間6
冊)をお届けします。会員はこの
ページの山行報告に参加できます。
入会金 500円(パッチ代)
年会費 2500円(送料共)
です。
新ハイキングクラブ関西への入
会申し込みはこの雑誌に挿入の振
込用紙をご利用下さい。振込号か
ら送金せよと明記下さい。
○新入会費紹介(1463まで)
辻本修士 岩田節子 三浦利夫

安野幸孝 尾野吉孝 恒任正昭
市原敏雄 別所 良 今村克己
宮井健子 村田智俊 米村賢司
岡 冬樹 竹内 賢 谷口啓久
杉原元弘 辻原真吾 岩崎邦夫
藤井勝志 東平朝和 武市眞芳美
飯田善明 山本 謙 加藤三男
大村和和 井田一久 佐々木豊
井村達哉 井村孝子 石谷 要
今井定一 村上俊子 山本 都
藤原敏子 小橋敏郎 橋本喜友夫
森崎保樹 山本智枝 秋山 純
森本善和 若田道一 高井万寿子
内田六夫 原 勇三 橋本久雄
藤原隆史 坂本 茂 坂本ヤスコ
井上 塚 中村敏文 千穂子枝子
石川勇雄 渡辺 勳 金田義一郎
林 木明 柴山敏夫 斎藤賢治
原 謙昭 柏谷敏子 古市忠洋子
神水洋治 松田智博 岡崎なつみ
中山尚子 藤合正宏 猪俣敏子

12号(初巻)30ページの機敷行
「S」マークを白紙で「1」は「S」
字カーブを直がりが正しい。11
号(巻3)23ページの白付は「S」
4年7月25日(日)27日(日)が正し
い。(猪俣敏子)